213-49463

明治四十三年一月一日發行（毎月一回發行）
明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

主幹 海老名彈正
主筆 安井哲子

要目

如何なる覺悟を以て新年を迎ふ可き乎 安井哲
女子敎育處感三則 東京府女子師範學校敎諭 西島富壽
あかん坊の話 文學士 倉橋惣三
愛讀の書と青年子女に推奬して可なるに書對する諸先輩の開書
親心の敎養 海老名みや子
基督敎の家庭 海老名彈正
本誌に對する批評
隨感

第貳巻第壹號 新年號

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界第貳卷第壹號目次

●如何なる覺悟を以て新年を迎ふ可き乎　安井哲子

想苑

◎女子教育所感三則　東京府女子師範學校教諭　西島富壽
◎あかん坊の話　文學士　倉橋惣三
◎冷い風　鈴木千賀
◎聖母に　高濱長江
●椰子の木蔭　田澤藤郎
◎愛讀の書と青年子女に推奬して可なる書に對する諸先輩の開書
齋藤きん氏、宇佐美敬氏、宮田脩氏、西島富壽氏、上代淑氏、下田次郎氏、小林彦五郎氏、松浦政泰氏、進藤よね氏、伊佐早梅氏、平野はま氏、伊吹岩五郎氏、柳井道民氏、天野みち氏

家庭

◎子心　齋藤生
◎親心の教養　海老名みや子
●治療し得可き不具　醫學士　金子魁一
◎「味の素」の話　鈴木衡平

講壇

◎基督の家庭　海老名彈正

雜錄

◎本誌に對する批評
村田勤氏、栗島基氏、有富虎之助氏、杉山恒氏、山巫鼎子氏

●隨感
海老名彈正、安井哲子、元良よね子、海老名みや子

電氣光學應用

米國最新式美術肖像畫

抑々本社製作の肖像畫は世間普通のものと異なり、米國最新の發明に係る、エレクトリック、エンド、ソーラプリンチングと稱する肖像畫法を同國に於て專門的に研究したる技師の製作にして本邦にては未だ他に之を行ふものなき獨特の妙技に成るものなり、此の畫法は寫眞を材料として電氣及び光學を應用し之を隨意の大さに引伸し絹地又は紙に復寫し更に洋畫法にて加筆彩色を施こすものなれば製成の畫像は容貌風采毫しも原圖に異ならず幾多の歲月を經るも決して變色せず且その畫料頗る低廉なるものなり今や本社は四方の賛助を得て大々的に此最新美術の普及を計らんと欲す大方の諸彥陸續御用命あらん事を希ふ其定價表は左の如し

定價表

號數	畫寸法	代價
一號	長一尺 巾八寸	金三圓九拾錢
二號	長一尺三寸 巾一尺	金四圓
三號	長一尺六寸 巾一尺三寸	金五圓
四號	長一尺八寸 巾一尺五寸	金七圓
五號	長二尺一寸 巾一尺七寸	金拾圓

掛軸用絹地肖像畫

號數	絹地寸法	代價
一號	長三尺二寸 巾一尺二寸	金八圓
二號	長三尺五寸 巾一尺三寸	金拾圓
三號	長四尺 巾一尺五寸	金拾貳圓
四號	長四尺五寸 巾一尺八寸	金拾五圓
五號	長五尺 巾二尺	金拾八圓

額縁代價表

號數	代價			
一號	金縁	自壹圓 至五圓	神代杉	自七拾錢 至貳圓五拾錢
二號	金縁	自壹圓五拾錢 至五圓五拾錢	神代杉	自八拾錢 至貳圓七拾錢
三號	金縁	自貳圓 至拾圓	神代杉	自壹圓 至參圓五拾錢
四號	金縁	自貳圓五拾錢 至拾貳圓	神代杉	自壹圓參拾錢 至四圓
五號	金縁	自參圓 至拾五圓	神代杉	自壹圓五拾錢 至五圓

右の外は御希望により如何樣の額縁にても調製可仕候

○掛軸用「クレオン」畫幷ニ水彩色附三割增し

○全身幷ニ二人以上は一人を增す每に定價の三割增し

○東京市內は御報次第店員參堂可仕候

但し寫眞御送附御注文の節は服裝等御好みあらば御明記を乞ふ

○地方より御注文の節は凡て前金の事（返送料荷造費は實費可申受候）

東京市牛込區喜久井町十八番地

白洋社美術部

高橋照

和洋
御菓子
漆器類
諸金物
雑貨類
其他何品
に依らず
卸値段を以
て御用達申上候

あれこれと迷ふ世話なき

大便利商店

小石川小日向水道町五四

萬進物調進所

梅月堂

御一報次第
直ちに参上
仕可く候

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

最新刊

東京醫科大學教授
醫學博士
大澤謙二著

通俗結婚新說

如斯內容を有せる好著ありや

結婚する人は見よ

結婚は人生の最大問題なり、輕々しく處決すべきにあらず、著者大澤博士は我が生理學の泰斗にして、夙に人種改良に就て一家見を有す、本書は博士が深遠の學理を常識の篩に掛け、簡明通俗に趣味と實際の兩面より結婚問題の一切を解決せる出色の好著なり

▷要　項◁

結婚と品性（婦人と結婚●良縁の意義●良人の不人格より及ぼす家庭の悲慘●何故に人格撰擇を主眼とす可き歟●嫁の舅姑に對する精神的動作●嫁に對する舅の心得●婦人と武士道）結婚と遺傳（生物と生殖●遺傳の狀態●父母の遺傳力は不等●男女兩性の分れる原因●精神上の病的遺傳●痴愚は婚姻の不合格者）結婚と血族混媾（血族婚姻と動物●血族結婚の由來●血族結婚は危險）結婚と異族混媾（離婚に關する學者の諸說●動植物の雜種●人類の離婚に關する諸說）結婚と酒の害毒（酒の十惡●酒を用ゐぬ一般的利益●親の飲酒と不良少年●酒の危害●酒に代る飲料）結婚と慢性傳染病（結婚と黴毒●結婚と結核●結婚と惡疾）結婚と年齡（男女の知恥期●驚く可き早婚の弊害●年に關する迷信）結婚に關する雜觀（美貌は風景の如し●黃金萬能主義は不可●結婚の三主義●理想の夫婦）

結婚せる人も讀め

菊判美製　全一冊　正價金貳圓廿錢　▲郵稅　內地十二錢　臺清卅五錢

東京日本橋角　振替口座東京二三八番

大倉書店發行

御報次第早速品物持參御覧に入れ申すべく候

本場はまちりめん

近江國長濱名產

濱縮緬反物　小切れ　兵兒帶
うづら縮緬　濱絹　かざり織
眞綿　濱蚊帳　其他いろ〳〵

右は直接織元より取寄せ販賣致候に付

品質よろしく　價格やすく

本場に於て御求め被遊候とすこしもかわり御座なく候

東京市牛込區新小川町二丁目十一番地中の橋通り

ちりめん屋　**山田常愛**

郵税振替貯金　東京一四六七五番

染もの御取次ぎ致候

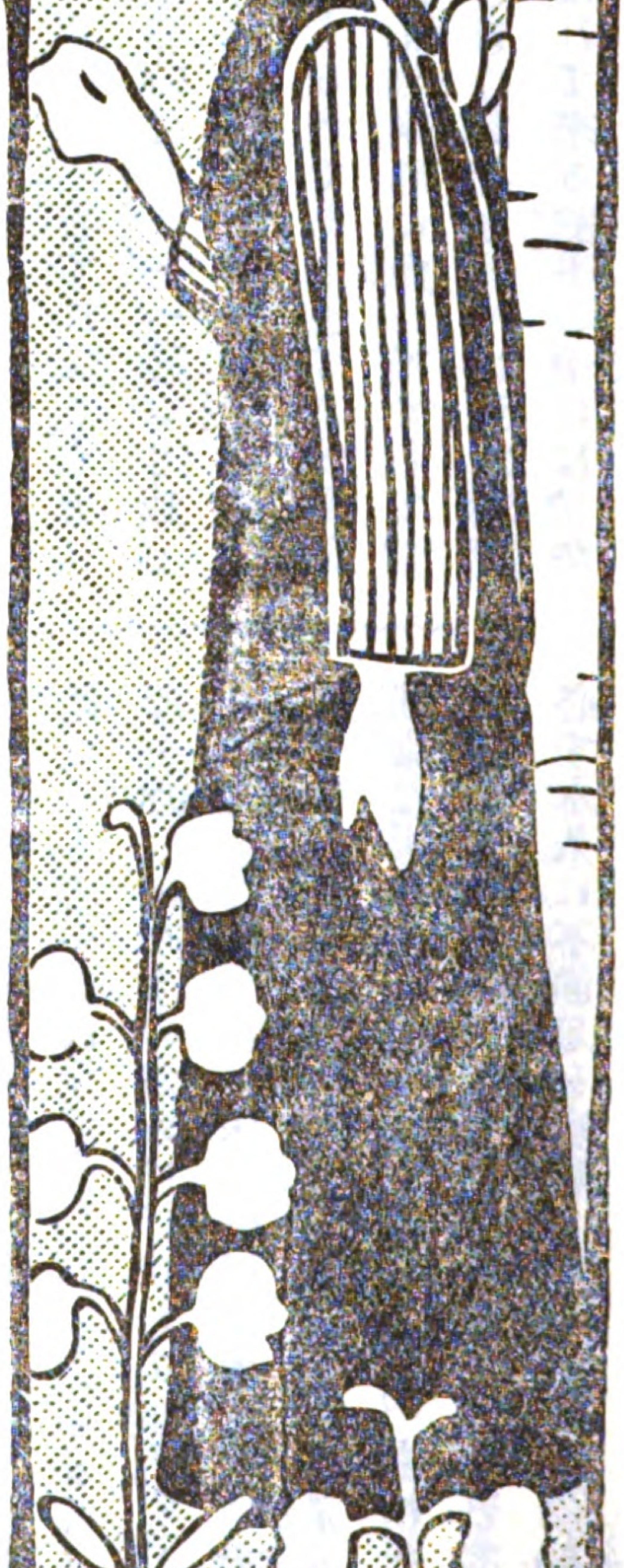
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

童貞　筆ルブンザア

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



如何なる覺悟を以て新年を迎ふ可き乎

安井哲

明治四十二年も夢の如く過ぎて、茲に四十三年の新しい年を迎へる事となりました。過去一ヶ年間に起つた社會上の出來事や一身上の出來事を追懷して見ますと、種々の感に打たれざるを得ません。皆樣は昨年の元日に抱かれた豫想を、大晦日の追想に比べて、如何に御感じなされましたか。

吾々の生活は實に變化に滿ちて居ります

例へば、昨日まで健康を樂しんで居る身が、今日は急に病床に惱む身となり、何一つの不足もないと喜んで居た者が、不慮の災難で、俄に衣食に窮するといふ樣になる

者もあります。かくの如く、一身上にか、家族にか、又は知己朋友の身の上にか、絶えず何等かの變化が起つて、之れが爲めに、我々は喜んだり、悲しんだり、安心したり、心配したり、常に快樂と苦痛との經驗を繰返へして居る者であります。併此變化あればこそ我々は幸福を感ずるので、不變化一調子の狀態は、精神を不活潑にし、生活の興味を感じない樣になります。彼山海の珍味を常食として居る人々が、終には美味の感を失つて、却つて粗食に變化を求める樣になり、又常に絹布を纏つて居る婦人は、田舍娘が稀に着る新調の綿服ほどには、美服に對して其貴さを感じぬ樣になるのは、即此例で御座います。之れに依つて觀ますと、

變化は快樂を感ずるのに必要な條件

である事が解りませう。我々は苦痛を經驗すればこそ眞に快樂を喜ぶ事が出來るのみか、其當時は到底堪へ難いと感じた苦痛も、どうかこうか、切拔けて後に之れを追想しますと、實に云ふべからざる愉快を感ずる者であります。此關係を能く見分けぬ人々は、一時の苦痛を無理に免れ樣として、正しからぬ行爲をなしたり、甚しきは其身を殺すに至る者であります。日々の新聞紙上に現はれて來る記事の中には、かゝる適例が非常に多くあります。例へば生活が困難である爲めに、自分の保管すべき公金を私用して、法律上の罪人となつたり、又は病氣を苦にして自殺するが如きは、日々に起る事實であります。かゝる人々は受けねばならぬ運命を無理に免れやうとして、小さな苦痛を故さらに大きくし、一時的の不幸を永久の不幸に導く者であります。他人の行爲として批評します時には、其愚は明に見えますが、之れを自身實際の境遇として考へます時には、己れも亦此思慮なき行爲を敢てする事がないとも限りません。そこで

眞の幸福と主義のある生活

とは離るべからざる關係を有つて居るといふ事を、以上の諸例から推す事が出來ませう。そして、一生を通じた生活を支配する一つの標準を有つて居る人々は、圖らざる悲しみに出逢つても心が亂れず、又喜びがあつても守る所を失ひません。即一時の出來事の爲めに、決して永久の利害を忘れる事がなく、能く心の平和を保つ事が出來ます。かゝる人は富める時にも貧しき時を豫想し、得意の境遇にも失意の境遇を豫想し、健康な場合にも病氣を豫想します。之れが即幸福な生活を繼け得る秘訣であります。一時的の滿足を求め樣とする人は、必ず永久に不滿足を實驗し、一時的の利を貪らんとする人は、必ず永久に損を致します。例へば學生が修學の眞意を忘れて、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一時免れの勉強を爲す時には、卒業後實力がなくて、實際の業務に當つて不都合を感じませう。又靑年時代に於て、成るべく自分を抑制し、精神の修養を爲す事を勉めずに、我儘勝手の生活を營んで居りますと、生涯誘惑の奴隷となつて、價値のない一生を送らねばならなくなります。其故に將來の幸福を望む人は、現在に出來るだけ苦しむがよく、又現在幸福であると自覺する人は、之れに安んじ終には無思慮不注意の生活に陷つて、其幸福を失ふ事のない樣に、常に感謝の意を以て自身を抑制せねばなりません。かくの如く

平時に於ける覺悟

は非常の場合に於ける覺悟よりも一層大切であります。吾國民は戰時に於ては一致團結、國家の爲めに盡く私事を棄てる美風を遺傳的に有つて居りますけれども、平和の日に於ては、自利的な、不眞面目な生活を爲す傾があります。戰爭は誠に悲しむべき出來事で、人類一般の幸福の爲めに、誰も此事のない樣に希望致しますから、我々が若しも文明國民としての品位を高め、文明的の競爭を爲さうと思ひますれば、勢ひ平時に於ける生活の狀態を高尙に進めねばなりません。之れと同樣に、個人としても、變に處しての覺悟を爲すのみでなく、平時に價値ある生活をなさねばなりません。然るに現時の靑年が着眼する點は、日常の細い出來事に對する注意でなく、不時の出來事を待つて俄に其身の幸福を高めんとする樣に見えますが、甚不健全な態度といはねばなりません。其故今後我々の取るべき生活の方針は、國民としても、又個人としても、今少し其業務に責任を感じ、大小となく何事にでも平生忠實に働くといふ事であります。不誠實無責任の行爲は信用が伴ひません。信用のない國民、信用のない個人は、人として何等の價値も御座いません。かゝる人々の集つた團體は最不愉快な、最危險な者であります。世の中には多數の生徒を預つて、眞の責任を有つ人が一人も居らぬ學校もあり、數週間無斷缺席しても意に留めぬ學生もあります。贋物を賣つても、賣つてしまへば最早關係がないとすまして居る商人もあり、主人の金を無斷に持ち出して遊興に費す小僧もあります。上も下も、男子も女子も、監督者も被監督者も、無責任な行爲をなして互に怪しまぬ吾國現時の狀態程、歎くべき事が外にありませうか。私は文明國人としての第一の資格は、實に責任の何たるかを解する事であると考へます。そして我々は

永久的に責任ある生活に入らねばなりません

一體價値のある生活は、習慣となつた生活でなければならぬので、一時の出來心で今日は善行を爲し、明日は氣が向かぬ故に、非行を敢てするといふ樣では、其人には道德上の價は附けられません。其故に我々は既に一種の傾を有つた生活を續けて居らなければならぬ筈で、每年々々新しく其年の生活方針を定める必要は御座いませんが、種々特別の場合に出逢つて、一年每に益其傾を深くして行くのみであります。何時でも何時でも「價値のある人になるにはどうするのか」と云ふ問のみ繰返して沈思默考するのみで、少しも實行せねば、何の傾も習慣も出來ません。私の實驗に依りますと、近來の靑年女子の中には、永久に沈思して實行を力めぬ人々が多い樣であります。其故に

新年を迎ふる覺悟は一生涯を通じた覺悟

であると同時に、其覺悟を元日早々實行せねばならぬのであります。此覺悟は年の始でも終りでも同一で、時に依つて自然異つた出來事に出逢ひませうが、唯主義の適用が異るばかりであります。如何に新年でも、豫算もなしに無益の御馳走をしたり、形式的の贈物に多くの金錢を費して、生活費に差支を生じたり、不必要な美服を新調して、一時的の快樂を

取らうとする樣な統一のない生活は、何の價値もありません。或は又如何に樂しい新年でも、七日も十日も唯遊戯に其日を暮らし、之れが爲めに、平生の規律ある習慣を破つて、精神上、健康上誠に好ましからぬ損害を受くるのは、最不得策な事であります。かゝる有害な快樂を貪らうとする前に、目を轉じて我身の周圍を御覽なさい。新衣どころか、遊興どころか、三元日の餅すらも祝へぬ細民が澤山ありませう。寒さを凌ぐ古綿服さへも有たぬ憐れな子供もありませう。或は又獄中に苦しんで居る不幸な人々もあれば、生命の旦夕に迫つて居る病人もありませう。是等は現時こそ他人の身の上でありますが、何時如何なる事で、自分も亦かゝる境遇にならぬとも限りません。實例は近く我々知巳の人々にあります。其故吾幸福に對して感謝すると同時に、不幸な人々に同情し、常に幸福な場合には先不幸な場合を豫想して、能く心を引締め、心の釣合を取る事を忘れてはなりません。殊に婦人は外部の刺戟に心を奪はれ易く、美衣美食のに物質的の滿足を得樣とし、之れが爲めに不知不識其夫を不正行爲に導く事があるのみならず、大切な子供に矯正し難い不良の傾向を與へる樣になりますから、初めから末久しく永續する樣な幸福を目的とし、常に眞面目な、責任ある生活から脫せぬ樣に自身を制裁し一生貫徹した主義を曲げぬ樣に戒心する事が肝要であります。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女子教育所感三則

西島富壽

一　二重の職責

之は相應の教育を受けて何等かの職業に從事しながら、且つ一方には自己の家庭を持つておる婦人に就て云ふのでありますが、例へば師範學校の卒業生とか或は他の類似の學校の卒業生で、公私の職業に就きつゝ家庭を經營しておるといふ人々に對して、世の中では男子の方々と同等の成績を要求しておるやうであります。のみならず此等の婦人に一寸した失敗でもあれば無遠慮な酷評を下して顧みないといふやうな有樣を見受けますが、私は之は少し殘酷な事ぢやないかと思ひます。

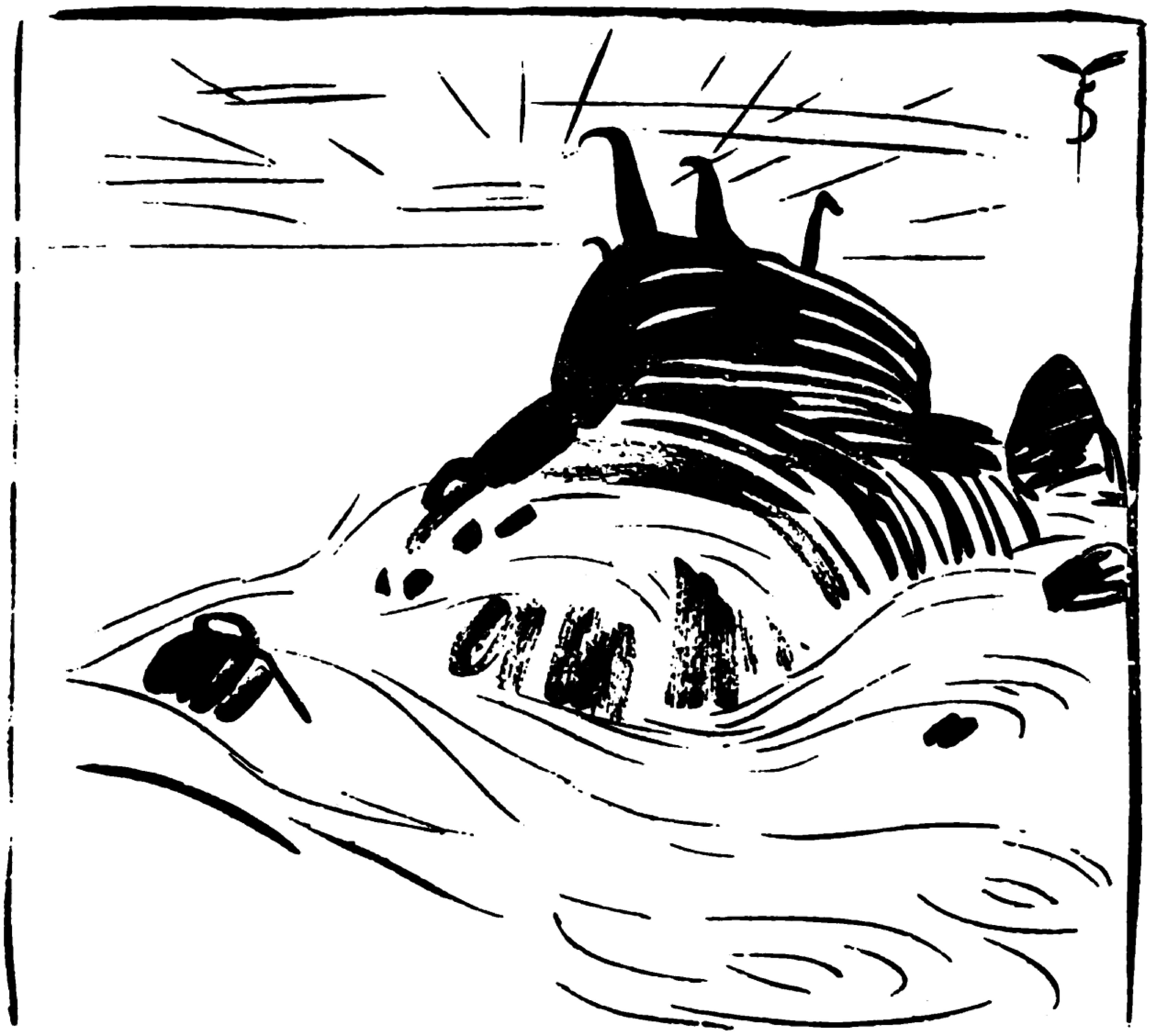
斯る婦人は二重の職責を負せられておる譯で、一方では男子の方々と同じく其職務に滿足なる成績を擧げねばならないし、他方では又一家の主婦として、子女の養育父母の孝養など萬端の事柄を自己の手一つで處理して、良人をして後顧の患なく其日の業務に送り出すと云ふ仕事をなさねばならぬ事でありますから、實際並大抵の事ぢやないと思ふのであります。之を男子の方々と比較しますと、勿論其職務の難易や大小などは異る處もありませうが、男子の方々の只一の職責を負うておらるゝに反して、斯る婦人はも一つの職務——而も頗る困難な——を餘計に負はせられておるのでありますから此二つの職責に對して同時に完全に盡せよといふのは私は無理な注文であると思ひます。

從つて之は女子と職業といふ事も研究せられなければ解決の着かぬ問題でありませうが、何に致せ現今のやうな過渡時代におきましては、二重の職責に苦しむ女子が益々多くなる事は明かでありますから、世の男子の方々は、女子が其家庭に於て如何程の力を盡し得るものか又同時に其職業に於て如何程の成績を擧げ得るものかを研究して下すつて、重過ぎる

希望を要求して女子をして困難なる狀態に措かぬ様にして貰ひたいと思ひます。

二　女子の學力

同じ年限の間同じ程度の教育を授けましても、女子は男子に比較して見ますると、如何しても女子の方が卒業後の學力が劣ります。之は女子教育者自身が明かに認めておる事で御座います。之は女子の先天的性質にもよる事で御座いませうし、又習慣的に教養を經てゐないといふ事にも原因しておる事であらうと思はれます。即ち一般から云ふと然迄に教育を受けてゐない母親から生れて來た現今の女子の事で御座いますから、遺傳的に教養の要素を欠いておる譯で、永く教育され訓練されて來た男子と比較しては、其教育の結果が劣等の地位にあるといふ事は寧ろ當然の事ではないかと思ふのであります。例へば女子の學問は機械的に走つて、發明工夫の力なく、又は概括力が乏しと云ふのも、皆以上の事に原因する欠點であると思ひます。五歳から十歳迄教育した兒供と十歳から十五歳迄教育した兒供と、年限は同じ五年間ではありまするけれど、其結果に於て優劣のあるのは明瞭な事で、教育を受け始めた兩者の狀態に甚たしき軒輊があるのでありますから、現今の女學生の學力が男子に比して劣つておるのは何にも不思議はないのであります。



それを世の中では徒らに此結果ばかりを見て、女子は學問の才能を有たないものである、教育を授けても更に進歩し發達する事の出來ないものであると論斷して、學問不必要を稱へる人々があるやうに見受ますが、之は大なる誤謬であつて、十歳の兒と十五歳の兒と習得の結

果に於て、非常なる差異があるといふ最も覗易き道理を逸した論であると思ひます。

私は將來に於て女子が教養を重ね來るに從つて、其學問の才能は益々高まつて男子と並行する事が必ず出來る事と思ふてをります、現代の女子が教育された素質を子孫に傳へ、更に又其子孫が次代の子孫に傳へて行つたなら、女子の才能は自然的に高まらずにはゐないと思ひます。今に於て教育不必要を説き又は失望の聲を揚げるのは、實に淺薄なる議論と云はなければなりません。

三　一般の家庭と女子の學問

高等女學校卒業以上の女子を持つてをられる家庭では、女に學問させて見た處で格別家庭に何の役にも立たゝないからといふので、學校教育又は高等教育を否認せらるゝ方々も往々あるやに聞き及びますが、私は之に就て少しく申して見たいと思ひます。

女子教育と申しましてもまだ若い歷史を持つてをります許りで、教ゆる事夫れ自身が未だ研究中に屬してをるやうな仕末でございますから、徒らに理論に走り實際方面を欠いてをると云ふ非難を被るのも己むを居ない事であると思ひます。實際生徒も學問を實地に應用し得る才能を備ふるに至らない中に、學校を卒業して仕舞つて家庭に入るのですから、學校の教育が何にも役立たぬ樣に見ゆるのであります。私の經驗から徵しましても、尋常師範學校時代で二年間學習した事柄を、それだけの智識で應用し得ました範圍よりも高等師範學校の四年間で得ました才能で應用し得まする範圍の方が如何程廣く且つ大きいか知れません。教師となつて生徒に教ゆる時になりましても、自分の多少研究した學科に就てなら、適切な手近な實例を擧げて、生徒の理解し易いやうな方便も作る事が出來るもので御座います、それですから學問が進めば進む程應用の才能も發達して來るのは疑のない事實であります。故に私は女子に更に高等なる教育を授ければ、從つて應用の才能範圍も擴大し家庭に入つても眞に教育を受けた女子として、充分に其才能を發揮するものが出來る事と思ひます。

扨て其女子がいよ〳〵家庭の主婦として家政を處理する段になりますと、從來の慣習に囚はれてそれ以外に道のないものと思つておいでになる老人や男子の方々は、主婦の遣り方が氣に食はず、あれこれと文句をつけて少しの過失に對して迄も仰々しき攻擊を加へて、主婦をして思ふ樣に働かしめないといふ事も大分世の中に見受ける事がございますが、私は之もよくない事と存じます。女子に限らず何人でもそうです

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

が自分の習得した學問を應用して活かして使ふには、種々なる經驗が必要であります。多くの場合に於て物事は失敗によりて教育せられるもので、失敗に失敗を重ねた結果遂に成功を見るに至るものであります。夫に女子教育家が現に授けておる學問夫れ自身も不完全なものであり、此から將來に於て幾多の改善をなさなければならぬ狀態にありまするし、從つて其教育をうけた女子が家庭の人として其學習した教育を實際に應用する時に於て色々の失敗や過失をなすのは止むを得ない處であります。でございますから世の中の人は女子の學問や其應用の才能に就て暫らく完全を要求する事を忍び、滿足な結果を將來に待つといふ寛容の態度を以て現今の女子を取り扱つて貰ひたいと思ふのであります。私から申しますと現今の女子はまだ〳〵失敗が足りない、もつと失敗の苦い經驗を嘗めなければ良結果は湧いて來ないと思ひます。

　男子の方々にした處で、例へば只今は元勳として功成り名遂げた政治家でも、四十年前の維新當時から明治初年の改革時代の事を後から御覽になれば、あゝした方がよかつた、こうした方がよかつたと思ふ事が澤山あつたに相違なく、又之によつて改善の方法が見出されて今日の組織が出來上つた事と思ひます、女子教育も同じ道理で今が研究時代でありますから、女學校の卒業生が家庭の人としてのやり方に種々の失敗がありましても、それが皆將來の成功の母となる事でありますから、大目に見なければなりません。濫りに非難攻擊をするのは女子の元氣を沮喪せしめて學問に對する興味を失はしめ、又引いて父兄の子女教育に對する思想を阻害する事となりますから、此邊の事に就ては余程注意して頂きたいと思ひます。（文責在記者）

あかん坊の話

人間の赤ン坊と他の動物の赤ン坊

倉橋惣三

　英語のヘルプレスと申す言葉は、自分で自分が支へられないといふ意味だそうでありますが、世に人間の赤ン坊程ヘルプレスなのは無いのであります。人間は何事でも他の動物に優つて居りますが、此の生れたての時丈けは一番劣つて居る樣に見ゑるのであります。假令ば鷄の赤ン坊は生れるとすぐぴよ〳〵と小さな嘴でつゝき歩いて餌を拾ひます。又犬の赤ン坊などでも生れて直きに步き出して十五日もたては立派な一人前の否一犬前の若者になるのであります。猫の赤ン坊などは尙早く成熟します。其の他蟲や魚の赤ン坊にしても生れゝば、ぢきに一通りの自己生存力は具へるのであります。處が人間の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

赤ッ坊は如何でありましよう。幾日も〳〵產衣につゝまれて寐て許り居て、乳さへ母の方で抱いて飲ましてやらなければ自ら索め得ません。歩くことは勿論匍ふことも中々出來ません。つまり一日でも他から世話をして貰はなければ自己生存の出來ないといふ狀態が甚だ長くつゝくのであります。そんならば母の胎內で成熟の仕方が足りないのかと申すと、決して〳〵それ處ではありません。他の動物のおつ母さんが始めて懷胎してから其の赤ッ坊を生み落す迄の長さといふものは極く短いものでありまして、それは動物の產婆さんに聞いて見れば直ぐ分ります。其の中御懇意な處を少し擧げて見ましようならば鼷鼠の二十四日間、野兎の三十二日などの非常な早いお產を始めとして、鼠のお嫁さんが五週間、猫のおかみさんが八週間、犬の奥さんが九週間、狐のお嫁さんも九週間、獅子大王の奥方でも僅に十四週、それから象夫人などは長い方で二十四週間、一番長い熊夫人や小猿夫人でも三十九週間だそうであります。處が人間では如何かといふと申上げる迄もない十ケ月即ち約四十週間以上が普通であります。即ち、して見れば初めに赤ッ坊として生れる迄にも人間の赤ッ坊が一番ゆつくり長く世話がかゝつて居る譯なのであります。そこで此の長い月日胎內で育てられて居て、しかも生れるとヘルプレスなこと斯くの知しとすれば赤ッ坊としては人間は他の動物にかなはないと言はなければなりません。

人間の赤ッ坊のヘルプレスなる譯

處が再びよく考へて見ますると、此の人間の赤ッ坊のヘルプレスが成程人間の他動物よりもえらい處だといふことが分るのであります。尤も動物の方にも如何なる學說があるか知りませんが、我々は此の赤ッ坊のヘルプレスネス即ち成熟の遲いことを被敎化性が多いと稱するのであります。被敎化性と申すのは讀んで字の如く敎へ化せられる性質といふのでありまして、言葉を換へて申しますならば、持つて生れた力量だけにズン〳〵と成熟して、それで止まつて仕舞ふのでなしに、種々外界からの感化敎化を受けて、それれによつてゆつくり、倂しとつくりと育て上げられて行くと云ふ性質であります。之れを實際に見ますならば、鷄の赤ッ坊は如何でありましよう。成る程生れてすぐに餌を拾ひます。スパルチングといふ人の研究によれば、卵から出て二分たつともう地蟲の動く方に目を向け得たといふのであります。そこは甚だえらいので、驚くべき天才とものはなければなりませぬが、扨て其の神童の鷄の赤ッ坊が長じてどれ程えらくなりましようか、晨を告げて人間の寐坊を警告して吳れたり、おいしい卵燒のもとを供して吳れたりしますことは大に謝さなければなりませぬが、

併し、之れは只鷄並みのことでありまして、鷄が空中飛行器一つ發明したといふことさへ私は未だ聞かぬのであります。即ち早く一鷄前の鷄には成熟しますけれど其の上の發達といふものは全く止つて仕舞つて、いつ迄たつても滑稽行々々々と云ひながら赤ッ坊の時そのまゝの生活を續けて居る丈けなのであります。處が人間の赤ッ坊は一分どころか數ヶ月たつても物の遠近といふものがよく分らないで、手を伸してお月樣を捕まへようとする樣な愚かしいものでありますが、いくら駄目でも鷄よりは以上の發達を遂げるといふのは即ち此被教化性によるのであります。鷄は生れたまゝ學びもせずに直ぐ餌を拾ふ。人間の赤ッ坊は何一つ經驗、練習、學習を經ないでは出來ない併し其の長き經驗や學習の結果によつて無限の發達をなし得るといふ處は、非常に意味深いことだと思はれます。

赤ッ坊期は準備の時期

即ち人間の赤ッ坊期は將來の大發達の準備の時期なのであります。大切な念入りの仕度の時期なのであります。そこで其の仕度といふことは色々の方面から見られるのでありますが、先づ一番著しい身體の發達のことで云つて見ますれば、人間の一生の發達の中で一番發達の早いのが此時なのであります。即ちあの產衣の中にくるまつて一日の大部分はすや〳〵と眠つて居る赤ッ坊は實に時間を空費して居る樣に見えますが、大に左樣でありません。實はその無爲なる如き間に於て非常なる仕事が內の方で行はれて居るのであります。即ちずん〳〵と身體が築き上げられて居るのであります。勿論大きくなりましても身體の發達といふことは續いて行はれますことで、何も赤ッ坊期に限つてのことでもありませんが、併し其の度合に於て殆んど別種の現象と思はれる樣な相違があるのであります。試みにドナルドソン氏が英國の男の子に就て調ました處により、簡單に實例を申上げて見ますると、生れて直ぐの赤ッ坊の體量は三二〇〇グラムでありまして、それが第一年の終りには九九〇〇グラムになるのでありますから、其の增加は六七〇〇であります。即ち之れを誕生時の三二〇〇に對して割合をとつて見ますと、殆んど二倍九分に當るのであります。次に第二年の終りは如何かと見まするど、體量は一二八〇〇グラムになりますが、其の一年間の增加は二九〇〇でありまして、此の一年間に於ける增加の割合は二割九分にしか當りません。即ち第一年と第二年とで既に斯く相違があるのであります。即ち他の言葉でいひますならば最初の一年間に於ける發達の速度の非常に大なることが分るのであります。處が此の二年目の二割九分といふのも實は甚だ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大きい數なのでありまして、その後年齢により出はいりはありますが併し段々に增加の割合が減じて二十歳から二十一歳になる頃などは僅に一分二厘になります。最血氣盛りの時といはれる十五六才の頃でさいも一割何分といふ位の處なのであります。處でこれは只體量に就ての例でありますが、之れ一つによつて見ても赤ッ坊期の大切なことが知られるのであります。又一寸した例でありますが赤ッ坊期は特に營養の大切なといふ處から、腸の長さと身體の長さとの比が大人では四倍であるのに赤ッ坊では六倍もあるといふ樣なことも準備時期として、最もふさはしい理合に出來て居るのであります。

赤ッ坊期は最も危險な時期

赤坊の一ケ年が右申した樣に非常に速やかな發達の時期で、其内部生存力といふものが大に强いといふ一方に又他方の事實は此の一ケ年が頗る生存上の危期であることを示して居るのであります。則ち此の一ケ年の間に於て生存の保てなくなるものが非常に多いのであります。新年早々緣起でもないといふ人もあるかも知れませぬが、此の乳兒死亡率の問題は我々人生の嚴肅なる現象中殊に嚴肅なる問題の一つでありまして乳兒殊に生後一ケ年未滿の赤ッ坊の死亡率といふものは、人生のいづれの年齢に於けるよりも大なるのであります。

今日は詳しく其の統計などを擧げてお話することは見合せますが、併し其の何故に斯かゝる現象があらはれるかいとふことに就て一寸申して見ますると、其の主なる原因は先天的原因によるのでありますか、又生後の手當如何といふ處にも大に關係して來るのであります。勿論識て手當を怠るといふことは、ある筈はないのでありますが、世間には無智の爲に識らず〳〵此の大切な赤ッ坊期を害して居る例は往々にしてあるのであります。又識つて居ない譯ではなくつても貧困ゆゑに行屆きかねて居る樣な氣の毒な場合もいくらもあるのであります。たとへよその家のことであるからとて、斯ういふことゝは棄ては置けません。そこで赤ッ坊期の危險といふことゝ及び其の手當養育の方法などを詳しくよく分るように貧民の家々に知らせるといふ樣なことも極く大切なことになるのであります。又英國のある所で行はれたと申す樣に此の問題に關する一つの慈善團が起つて、どこの貧家に出產があつたといふことが直ぐ其人々に知れる樣に出來て居て、その報知が來るや直に斯ういふことに熟練のある婦人が其家を見舞つて、懇な綿密な注意なり世話なりをする。尙ほ一年間位は引つゞき時々訪問して赤ッ坊の爲に注意もし助力もするといふ樣なことが大に必要にあるのであります。但し之れは無敎育な貧家の爲にのみ必要なことではないのでありまして、只自

ら教育ある人々は、自ら此のことは就て深き周到な注意を養つて置かなければならんのであります。

赤ッ坊期の使命

そこで、赤ッ坊期は一方には生長力の非常に大なる時期、又一方には生存上の危險の大いなる時期であるといふことから、赤ッ坊期の使命といふものが考へられて來るのであります、即ち以上のことをよく〱味つて考へて見まするならば、赤ッ坊期は現在と將來とに共に重大なる使命を有して居るものと言はなければならないのであります。而して、其の將來の使命、即ち其の大いなる發達力によつて大なる將來の爲に充分なる準備をなすといふことは、更めて說明を要する迄もない明なることでありますが、私は赤ッ坊の顏を見ます每に、其の無意味な樣な空の樣な中にこそ眞に潛めるいゝいゝ無限の可能力があることを考へまして、此小さき一粒の種子の偉大を常に感ぜざるを得ないのであります。併し私の茲に特に考へ度いと思ひますのは其の方のことではありません。所謂現在の方の使命であります。即ち其の現在のヘルプレス、生存の危期といふ樣のことに如何なる現在の使命が存して居るとかいふことであります。それも考へようによつて色々の意味にもとれるでありましよう。併し私は赤ッ坊の此の持前が吾々の人

生、乃至社會に非常なるやわらいゝぎの働きをして居るといふ事を忘れ度くないのであります。即ち先づ母、父、乃至周圍のあらゆる人々の心に殆んど想像の出來ない程のやわらいゝぎを與へて居るのであります。假りに若し赤ッ坊が生れると直ぐ自ら己を支へ得るものでヘルプを他に俟たないものであつたらば、果して如何でありましようか。母の愛といふものも今よりは、ずつと變つたものになるだろうと思ふのであります。其の殆んど他にたとへようのない注意も周到も懇切も乃至それでも倘ほ己が力の足らざることを思ふて、我が子の爲に祈るといふ心も、今よりは、ずつと違つたものになるだろうと思ふのであります。

更に之れがもとになつて一家の中に、社會の間に、やさしいやわらいゝぎのすゝめを與へて居ますことは、一々例を擧げずともものことであります。實に世に此の可憐なる自ら力なき小さきものがありまして、横には廣く地上至る處に、縱には遠く昔今に、いつも絕わず、此の我々の人生の荒れ易い土を堀つては、隨所に愛の淸水を湧き出でしめて吳れますることは、誠に偉なる使命といふべきものであります。ホイットマンの詩にあります。

われ、母の懷にありて眠れるあかごを見る、
眠れる母と赤ッ坊とよ。——あゝ、われ永く、永く之れを

思ふ。
と。眠れる小さき赤ッ坊の中には、實に科學もあれば詩もあるのであります。

冷い風

鈴木千賀

春の日のやうに華やかな音樂會も果てゝ、身は再び寂寥たる晩秋の氣にとぢられた。老母を送りての歸るさ、上野の丘に出た。折から日、西に入らんとして、茜の光向ケ岡の大時計を斜に照して、にぶい光澤のない、しかも力ある殘光が千古の杉の幹にかすれた。夕霜が東照宮のあたりに屯ふて杉の木影が黑くなつた。蒼く苔むした石燈籠のかず〳〵。

日は段々と落ちてゆく、炎のやうな光が血のやうにかはつて、やがて消えゆくのであろう。茫然と暮れて了ふまで眺めてゐたいやうな景色。歩いてゆくうちにも、心が寂然と何だか落つくやうであつた。木の間がくれの冷たい石段を一つ二つたどつて池の端に出た。風なければ煙はゆるく流れて下谷のあたりから根津の高臺かけて、黑繪の龍の樣に橙色の空を色どつてをる。池の水又をなじ色にきらめいて、針を植ゑたやうな蓮の枯莖の間を小鴨が心ぼそげに縫ふてゐる。黑ずんだ紫色の辨天島は丸で浮畫のやうに、なつかしいながめである。「歸へろうよ」と幼子にうながされて「オ、歸ろね」とふりかへりて見た時、側に四つか五つの女の子の、かすりや縞のつぎ〳〵の袷着たるが、肩にも及ばぬ髮は「オカムロサン」とは名ばかりの赤く蓬のやうに塵にまみれて、苛酷な浮世をそのまま縮めたやうな顏に、羨しげな情を浮べて、我々母子を仰ぎ見てゐる。ア、寒いだろう可哀想だと、思はず懷に手を差入ると、彼は無意識に大地に兩手をつかうとした。私はハッと思ふて、「あげるよ、あげるがね地面に手をついたりお辭儀したりするならあげないよ」といふと無言でうなづいて、泥にまみれた紅葉のやうなひゞだらけの手をさし出した。此子の兄らしい六ッ七ッの子が、六七間先にゐたが、この樣子を見て勇んで駈けて來て、をなじやうな藝當をやろうとすると幼女は吃驚したやうに、手を振つて「地面に手をついたりお辭儀なんかしたら呉れないとよ」と呼んだ。彼は「ウン」と、うなるやうに答へて、同じ樣な黑い手を指出した。私が立ち去たあとで二人は、貰つた鳥目を掌へ乘せて、較べて見て互に何かさゝやいでゐた。あどけない横顏をふりかへりて見て目のかすむのを覺えた。そして其刹那の如く無邪氣なるべき彼等の、そら〳〵敷擧動を止められて不思儀に思うやうな、其境遇を私は何とはなしに考へ込んだ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

七軒町のあたり電燈の光り三ッ二ッ見え初めて、例の風船賣も荷を形付けて忙はしく山下の方へ去た。二人の子供はつめたい風に送られて、風よりも冷たい其家に歸るのであろうと思ふた。

（了）

聖母に

高濱長江

聖母の君よ、私の傷しい心の中に
深い祭壇を貴女のために築きます、
私の心の最と暗い隅の方に
世の望みと僞りの瞳から遠ざかつて
貴女のために神の像を
藍色と黄金色の
滑かな龕に彫刻けて建てませう！
して貴女は私の流暢な詩と其の絢爛な
韻の句との記された奇き冠を戴り給へ

おゝ、人の世の處女よ、さらば私は
貴女のために爐邊の飾を作りませう、
して其の見惡い鄙風な婦人の上衣に
私の嫉妬を纏ひつけ、重味ある絨毛には
私の疑惑を、眞珠ならねど私の在らゆる涙にて
ぐるりの襞の所々に刺繍ませう、
さらば其の躊躇ひ戰慄く外袍こそ
貴女の愛らしい軀の蕾微いろや
白いところに接吻しつゝ峰から休息の谷へ至るまで
私の榮枯に伴ふ凡ての
願望のものだ、
侮辱され給ふた貴女の御足のために
柔和い羊の群の間へ彼ら人間を囚ふべき
美しい上靴を私は衷心から作りあげて

信仰の型のやうに彼らの印象を保護ませう、
して若し男らしくも思慮ある私の業が
貴女の御足に銀色の月を作らなければ
貴女の踵は、私の胸に潜んでゐて
人を傷ふ蛇の上にも安らかなるべし、
戰ひ勝てる我々の希望の女皇は生れ給ふた！
貴女は厭ふべき鄙夫どもの嘲弄をして
嫌惡の念を昂ぶらしめて、踏みにぢり給へ、
さらば貴女は私の思想と聖火のやうな
御前の花の龕と凡ての供物を見給ふべし、
處女の女皇よ、小さな灯も
蒼穹の星のやうに炎の瞳が
絶えず貴女を見守りながら輝いてゐる、
私の胸に全き愛と信仰の絶えないうちは
乳香と沒藥とは昧く嗅るべく
雪のやうな白い帆は、絶えず貴女へ
私の騷がしい魂は霧の中を漕ぎ行きませう！
して遂に貴女の戲曲を成就せんには
慈愛と殘忍と混りもし逢ひもするかも知れない、
貴女の悔しい苦痛よ、私は全く彼の七情を取り去つて
眞闇い歡喜の内に、彼の鋭利な
あの殘忍な七つの小刀を取りませう、
おゝ私の女皇よ、手品師の選ぶやうに
愛と慈みの根ざすべき貴女の熱愛し給ふ心の内へ
私は彼の深い瑕瑾を沈めませう！（ボウトレール）

椰子の木蔭

孤島にて

田澤藤郎

○船がゝりして夜毎の夢に幾度か心惡しき椰子の島見ゆ
○船は今、魔形の如く夕闇の萬波を切りて黑瀬川行く
○宿世かや波路をこわて遙々と椰子の木蔭に物思へとは
○黑潮の洗ふありそに何にしかも一人し立ちて物や思へる
○天地に神しまさずばこの憂き身水にも火にも打棄てましを
○歸化したる老キャピテンと語らひし南の島の磯の夕よ
○名も知らぬ鳥も來鳴きぬビンロー樹茂れる蔭に物し思へば
○休息の岸を求めて何處にか國をはなれてわが迷ひ行く

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛讀の書と青年子女に推奬す可き書籍に對する諸先輩の開書

婦人の讀物として如何なるものが適當であるかといふ問題は、多くの讀者諸君から度々問ひ合せらるゝ處でございますが、一般に婦人向の著書の至つて尠少な今日でございますから、嘗つて本誌で數種の著書を掲載して質問に應じましたものゝ、未だ諸君の意を充分に滿足させるに至らなかつたのを殘念に存じておりました、此度廣く諸先輩に

▲愛讀せらるゝ書數種

▲青年子女に推奬して可しと思はるゝ書數種

の二問を提供して解答を求めました之によりて吾々は諸者諸君に多くの利益と參考とを呈し得るを喜びますと同時に、又諸先輩諸氏に解答の煩を避けられなかつた厚意に對し厚く御禮を申します。(以下到着順)

長野縣上田高等女學校教諭　齋藤きね氏

野山をかざりし秋の紅葉も一日一日とさびれて、いつしか天與の白衣と更衣いたし候この頃、皆々樣には御變もいらせられず候や、扨て此度は何か愛讀書及青年子女に推奬して可き書をいひおこせとの御事に候へども讀書の範圍誠に狹く、かつは兎角書物は精讀より積置になりがちにて、とても皆樣方の御參考には覺束なく候へども、仰せのまゝに左にしるし申候。

第一問

我信念(清澤滿之氏著)　精神主義(同氏著)

後世への最大遺物(内村鑑三氏著)

病間録(梁川氏著)　回光錄(同氏著)

噫無情(黒岩周六氏譯)

第二問

後世への最大遺物。　噫無情

娘に與へたる母の書翰

新女訓(下田次郎氏著)　誠のしるべ(村上博士著)

修養漫語(前田博士)　理想の人(安部磯雄氏著)

西國立志編。　我子の美德

家庭教師としての母

名古屋市高等女學校教諭　宇佐美敬氏

毎日の用事におはれ讀書の時とて前に得難き此頃、新聞雜誌などにて新刊の紹介を見てはあゝ讀みたいと思ふのみにて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

候、只今とりたてゝ愛讀いたしおるものとて申上難く候へども、かつては繰り返へして體讀いたし今も尙時々打開く書物二三申上候

第一問

逆境の恩寵(德永氏著)　我宗教(トルストイ)
時代管見(高山樗牛氏著)　愛吟(內村鑑三氏著)
病間錄(梁川氏著)　回光錄(同氏著)

第二問

理想の人(安部磯著)　隨想錄(新渡戸博士著)
人間の價値(海老名彈正氏著)

成女學校長　宮田脩氏

拜復御照會の讀物と申すは思ふに精神修養に資するものと存じ、其意味にて左の數書を御答申候次第御承知被下度候

第二問

懺悔錄(セント、オーガスチン)"Confession" by St. Augustin.(宮崎八百吉氏の譯書あり)
リリーズ(ジョン、ラスキン)"Lilies" by John Ruskin
(下田次郎氏の譯書あり「女の本分」と題せらる)
劉向列女傳及新讀列女傳
婦女鑑、　壺坂寺(淨瑠璃本)
偉人に爲せる婦人の感化(コルクラン)
(西洞たみの氏譯書あり)
自叙傳(ヘレン、ケラー)"The story of my Life" by Helen Keller.(皆川正禧氏の譯書あり「わが生涯」と題せらる)

東京府女子師範學校敎諭　西島富壽氏

第二問に對し順序もなく認め候間御取捨被下度候

婦女鑑(宮內省)
名婦鑑(德富健次郎)
婦人の鑑(松村介石)
美姫遺蹟(池邊義象 增田千信)
わが生涯(ヘレンケラー 皆川正禧譯)
偉人に及ほせる婦人の感化(內外出版協會)
小公子(若松賤子)
まだ見ぬ親(五來素川)
醉人の妻(久保天隨)
經國美談(矢野龍溪)
新女訓(下田次郎)
女學生訓(大町桂月)
家庭敎師としての母(大村仁太郎)

婦人の修養(田川大吉郎)
戰時講話(御園生金太郎)
聖德余聞(三省堂)
益軒十訓
福翁百話
鳩翁道話
報德記
心學叢書
西洋立志編
西洋品行論 }(中村正直)
通俗倫理
倫理と文學 }(坪內雄藏)
人格と品位(浮田和民)
學習法(澤柳政太郎)
法律上の婦女(樋山廣業)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

山陽高等女學校教諭　上代淑氏

拜啓御尋ねの件左に御回答申上候

第一問愛讀の書は

フランシス、ハバガーの詩集

ジエー、アール、ミラーの著作

聖書

第二問青年子女に推奬してよき讀物として

益軒十訓。　婦女鑑

品性論（浮田博士著）

自然と人生（德富蘆花氏著）

靜思余錄（德富蘇峰氏著）

論語。　聖書

女子高等師範學校教授　下田次郎氏

女訓評論（河岸貫一纂釋、博文館）

女大學（貝原益軒）

女大學評論、新女大學（福澤諭吉著）

泰西女訓（本田增次郎編譯、內外出版協會）

小公子（若松賤子譯）

未だ見ぬ親（五來素川譯）

理想の母（デビス女史、內外出版協會）

佛陀家庭訓（常光得然和譯、釋敎書院）

女子の修養（下田次郎著）

女子の本分（下田次郎譯、金港堂）

立敎高等女學長　小林彦五郎氏

青年子女の讀物

ニコル著基督傳（柏井園氏譯）

美の宗敎（姉崎博士著）

賴朝（露伴氏著）

思出の記（德富健二郎氏著）

小公子（若松賤子譯）

常識の基礎（加藤咄堂著）

品性論（浮田博士著）

植村正久氏說敎集

日本女子大學講師　松浦政泰氏

青年子女に推奬してよろしき讀物數種との御注文に候も、小生は近來本邦刊行の圖書は生憎頓と讀み申さず、隨て自畫自讃の譏を免かれず候も、拙著二十餘種の中是非推薦致し度

中心より感じ候もの數種を擧げ其責を塞ぎ候

娘と妻と母(金港堂、定價六十錢)

世界遊戯法大全(博文館、定價一圓四十錢)

家庭の栞婦人文庫(大日本家政學會、定價三圓八十錢)

福島女子師範學校教諭　進藤よね氏

愛讀の書及び青年子女に推奬してよき書籍につき返事せよとの事には御座候ひしも誠にお恥しき事ながら生徒などよりも時々かゝる質問有之候にも係らず、あまりに深く調べたる事も御座なく候左に思ひつきのまゝ申上候、

愛讀の書

聖書、論語、枕の草紙、樗牛全集、

海老名彈正先生の著作

青年子女にすゝめてよきものは

聖書、論語、明倫家集、

西國立志編、基督傳、釋迦、孔子、

フランクリン自叙傳、イソップ物語、

スケッチブック、アラビヤンナイト、

靈海新潮、人間の價値、

菜根譚、宗教遺訓、萬國興亡史、

逆境の恩寵、偉人の母、

徒然草、十六夜日記、

噫無情、酔人之妻、何處へ行く、小公子、

三家庭、太平記、順禮紀行、樗牛全集、

此外偉人傳、貞女烈婦傳等、

札幌高等女學校教諭　伊佐早梅子氏

(前略)新聞にては「婦女新聞」雑誌にては「新女界」を舍生に閲讀せしめたり候。しかし私は現今狹隘なる勿讀主義は面白しと思ひ申さず、されば自分は小說なり何なりなるべく多く讀みて、これを生徒にきかせたり候。かゝる方面にてならば自分勝手の理屈は有したり候へども、さて何々を推奬せんかされもへば困り申候。よりて一般に可也と認めらるゝ害なき程度を示したる左項をと心づき申したる次第に御座候。

私の愛讀書としては

聖書　四書

終生を通じて變らざるべしと信じ得るものは右二種に御座候。次はさりたてゝこれと申す程のものこれなく、何でもよみ申候、中にも「理想の人」は深く愛讀し且つこれは大體に生徒にし舍生にも推奬致したり候位に御座候。

次は文部省が師範學校中學校高等女學校に於て、教科書以外に生徒をして閲讀せしむるに適當なりと認む可き書籍名につき、各地方長官に照會して當該各學校長の意見を徴し、同答數三百九十六校の内二十校以上共通なる書籍を蒐錄したるものに有之候、但し私は教訓の部にて三十校以上のものゝみをとり申し候、

敎訓の部

五十校以上

四書
小學
益軒十訓（貝原益軒著　西田敬止編）
武士道叢書（井上哲次郎　有馬祐政編）
心學叢書（赤堀又次郎校訂）
二宮翁夜話（福住正兄筆記）
日本學生寶鑑（井上哲次郎著）
日本立志論（千河岸貫一編）
自修論（竹村修譯）
品性論（同　人）
西國立志編（中村正直譯）
大國民（慶應義塾譯）
福翁百話（時事新報社編）
立志之礎（松村介石著）
修養論（同　人）
自省錄（村上專精著）
通俗倫理談（坪内雄藏著）
敎師論（柳澤政太郎著）
學生訓（大町桂月著）
座右之銘（偉人史叢編集部編）
太郎は如何にして敎育すへきか（大村仁太郎補）
我子の美德（同　人述）
我子の惡性（同　人述）

三十校以上

孝經
言志錄（佐藤一齋著）
幼學綱要（元田永孚撰）
聖德餘聞（三省堂編集所編）
修業立志編（福澤諭吉著）
常識の修養（芦川忠雄著）
人格の修養（實業の日本社著）
はゝのつとめ（三島通良著）
女子の本分（三輪田眞佐子著）
歐米名家の家庭（松浦政泰編）
公德養成之實例
附英人の氣風（讀賣新聞社編）
人生の行路（吉川潤次郎譯）
職分論（栗原元吉譯）
エミール抄（山口小太郎　島崎恒五郎譯）

二十校以上

近思錄
勅語衍義（井上哲次郎著）
現代名家武士道叢論（秋山梧庵編）
敎育者の敎師（大村仁太郎編述）
家庭敎師としての母（同　人）
女子之修養（下田歌子著）
精力主義（黒岩涙香）
青年訓（大町桂月著）
菜根譚（洪自誠著）

日本女子大學校講師　平野はま氏

青年子女に讀ませたき書

聖書、偉人言行錄（二十幾種、内外出版協會）
文學入門、小公子（若松賤子譯）
ヘレンケラーの「我生涯」（皆川正禧譯）
The Christian. The Eternal City. by Hall Caine
等に有之候

備中高梁順正女學校長　伊吹岩五郎氏

日頃最も興味を以て讀んでおる書

嚶鳴館遺稿、約翰傳、白樂天詩集

青年子女によまして比較的よしと思ふ書

十二文豪（民友社發行）
アブラハムリンコーン傳、新島先生傳（デビス著）
慈善美譚（エリサベス●フライ傳）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

之は古きものにて今は絶版になりたるやも知れず

備中高梁中學校長　柳井道民氏

泰西婦女龜鑑（澁江保著）
和漢婦女龜鑑（岸上操著）
帝國女子修身鑑（西田敬止）
即興詩人（アンデルゼン原著、森鷗外譯）
二十世紀は兒童の世界
家庭の栞婦人文庫（大日本家政學會）
エキスツロージナリーメン、エンド、ウイーメン（ウイリヤム、ラッセル著）

以上二氏は天野みち氏報による

備中高梁高等女學校　天野みち氏

御參考までに學校の寄宿の新聞閲覽室のテーブルに散見致します書は

大西博士全集、　樗牛全集
基督教本義（海老名彈正氏著）　武士道（新渡戸博士）
歐米名家の家庭（松浦政泰氏）　新女訓（下田次郎氏）
我懺悔（トルストイ原著、加藤直士氏譯）
修養談（松村介石氏）　園藝十二ヶ月（久田二葉氏）
報德記（宮田高慶氏）
新人、新女界

まづ此位の物で御座います、雜誌については皆さんの御意見があまり多讀せぬがいゝとの事でした。私もそう思ひます。此頃博文館や金港堂あたりより發行致してをります婦人雜誌や少女雜誌をちよい／＼手に取つて見ますと燃え立る火に油を注ぐ樣な危險な記事や、一讀の價値のない他愛もない事等がずい分多いやうに見うけます、ほんとに健全なのございません、新女界の生れましたは實に眞に意味あり責任ある事を、それにつけても思ふのでございます。

本誌に對する批評

大阪　加藤直士氏

新女界は毎號小さき妹の來訪の心地して嬉しく愛讀致しをり候時勢も變れば變るものにて、新人誕生の際の苦心經營に比ぶれば何たる成長の迅速ぞやと驚かれ申候。而かも家風に背かず家名を落さゞるが肝要にて、この新女界も兄の新人と同主義同目的にて一意奮勵せば、彼女の使命は果され候事と存候。之には家人の養育の苦勞を此上一層積まねばならずと存候。新人の發育だも目覺ましかりしは三澤、内ケ崎、吉野、野口の諸氏に小生如きものまで加はりて爭ふて紙面を奪ひ取りたる頃に有之候ひしと覺え候、新女界にも夫人の方々海老名安井の御兩人を援けて、毎號必ず執筆せられん事何より望ましく候、而せば注文せずとも讀者の滿足疑 無之候。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子心

齊藤生

クレーク夫人の作「ジョン、ハリファックス、ジエントルマン」といふ小説は、五十年ばかり前に出版されたものであるが、英國の家庭では今尚盛に愛讀されて居るといふことである。中々面白い、(尤も冗長な所もあるけれど)、デ、その大體の梗概丈でも述べたいけれど、それは他日に譲るとして、唯或る一節につき語らうと思ふ。

或るクエーカーの一人息子にフィネアスといふ病身ものがある。それが妙な縁故からしてジョンといふ此の小説の主人公と知り合ひになる。ジョンは孤兒で、家も土地も何等の財産も持つて居ないので、まだ十五か十六位の少年であるが、自ら何か他人の仕事をさせて貰うた僅かばかりの報酬で、やうやく口を餬して居る。一日例の通り町を歩行きながら、何か仕事がないか知らと思つて居る時、捗らずもフィネアスに御供してその家まで行くことを頼まれ、二人の少年はどうしたものか非常に仲善しとなつた。丁度ダビデがサウロ王に話をし終へた時、ヨナタンの魂はダビデの魂と結び合ひ、而してヨナタンは彼れを自分の魂の樣に愛したと、聖書にある如き心持となつた。此の清い而して濃かな厚い友情は、二人が死ぬまで變らなかつた。ジョンはその後、刻苦勉强、大いに身を立て功を成して、立派な紳士となつたが、彼等は肉の兄弟も及ばぬ交を益々厚うしたのである。さて此の二人がフィネアスの家で色々の話を初めた。だん〳〵御伽話も出て來た。處が、ジョンは書物を讀むことが出來なかつたので、見てもらひたい物があると言うて、衣嚢から革の小さな箱を出した。その中には聖書が這入つて居る。ジョンはさも手放し出來ぬといふ風に、之を兩手で持つてフィネアスに見せた。聖書は希臘語と英語とを對照したものである。その白紙の所にジョンの亡父の名が書いてあり、その下に『紳士』と附け加へてある、亡き母との結婚の年月日やジョンの生年月日も書いてある。今ジョンは更に母の死亡年月日を書き加へて貰つた。

彼等はいつまでも一所に居たかつた、併し乳母が出て來てジョンを追ひやらうとした。フィネアスはかぶりを振つたけれど、ジョンは素直に歸らうとした。フィネアスは強いて引き止めたが、ジョンは既に用事が濟んだから、今度は又何處かに行つて仕事を探さうとする。彼れはこんな事を言ふ。

「何でも見附かり次第の仕事をしませう。外に仕方がありません。私は御腹が空いても、物貰ひなんぞは決して致しません。而して着物は」と、自分の身なりを眺め、そのぼろ〳〵と切れ果てゝ、所々から大きな成長盛りの逞しい筋肉が見ゐるので、不滿足な心持で、「大方御母樣

は心を痛めて居らつしやるだらう、いつも私をあんなに綺麗にして下さつたのだから』とつぶやいた。

あゝ此の一言、洵に味ひの深い言葉である。ジョンは今みなし兒である、教育もない、財産もない、他からは襤褸を着てるので嫌がられる。併し彼れの心の中には實に何よりも尊いものがある、正直、勤勉、而して更に深い孝行の心がある。彼れは曾つて慈母が存生中、自分に綺麗なりをさせ、垢の附かない物を着せて呉たことを思ひ起し、自ら忸怩として愧ぢ入つたのである。日本の古い言葉にも草葉のかげからといふことがある。若し我等をこれ程までに可愛がつてくれ、而した善い子だ、エラクなれと頭を撫でゝくれた兩親のことを思へば、うつかり怠慢が出來ぬ、況して惡いことは決して考へてもならぬと言ふ事になる。遠く異郷に在つて學を修むる者にとつて、故郷の兩親に面目あるかと思ひ來るのは、非常に有効なものである。今ジョンは之に類したことを考へたのであらう。

親の惠みは今更申すまでもない。燒野の雉子、夜の鶴などいふ句では、迚も此の宏大無邊なる恩を言ひ表はし盡せるものでない。まことに我々は親の情けによつて、愛、犧牲、獻身、謙抑等いろ〳〵の高德を日夜學ぶものである。併し、口惜しいことに、我々は此の忝い親心を充分納得し切らぬことが少くない。吉田松陰も死に臨んで、「親を思ふ心にまさる親心」と歌つて居る。我々は親を思ふ、切に思ふ。然も尙どこら徹底しない所があるやうに感せられ

てならぬ。

人と人との間に於ける孝行が、是くの如きものであるを觀じ來り、更に百尺竿頭一歩を進めて、天父と我等との間に於ける孝道を考れば、得るところ少々にあらざるを覺える。ある人が、神様が私の御母様をつくつて下さつたと思へば、神様はどんなに惠みの深い、なさけの厚い方でいらつしやるかを思はずには居られぬと言ふたそうであるが、實際我等は親の心を推して神の御心を察し得る。思へば、有りがたうてならぬ、感奮激勵措く能はずとは此の事をいふのである。

かくて長い間、道樂に身を持ちくづした放蕩息子も、親の惠みに感激して忠實な孝行者となつた。墮落に墮落を重ねたアウクスチンも、信仰の深い、恩愛の厚い母モニカの祈りによつて奮ひ立ち、終には聖徒とまでもなつた。

「我が子よ、我が子よ、とく歸り
心ゆく祈りを共にせずや、」

といふ切なる望みは、いつか聞かれる。而して我等は之れに耳を傾けなければならぬ。不思議なるかな、親心と子心と。彼れ我れを思へば、我れ彼れを思ふ。此の心親のものなりや、子のものなりや、二にして一の如く、一にして二の如くである。宗教の深い經驗は此の所にあるではあるまいか。要するに、ほんの信仰といふものは、天父の親心に感應する子心に外なるまい。天なる父は遠い遠い創世開闢の初めから、今日此の時に至るまで、否、未來劫に渡りて、斷ねず我等を呼び求め給ふ。實に『語らず言はず、その聲聞ねざるに、その響きは全地にあまねく、その言葉は地のはてにまで及』んで居る。我等つくられたる者は、之に應へ、之と共鳴りを發し、その大なる聲にひゞきを合し得る素質は有る、如何なる人にもソの心の奥深く厨子を開いて見れば、たしかに有る。しかし、人の子は地上の事共に思ひ惑うて、耳にすべからざる響き、聞くべからざる言葉に、心を奮はれて、『我が子よ、我が子よ』と呼び玉ふ忝けない天父の御聲は聞ねない。よし少しは聞ねても、それが徹底しないのが常である。あゝ、世の人の子たる者が、もし前に述べたジヨンの様に『大方御母様が御心を痛めて居らつしやるだらう』と思ふ一念が、常に油然として胸底に湧いて居るならば、世にはさ迷へる小羊もなく、母のなげきも少ないであらう。

「愚かなる子は母の憂ひなり」。たとひ知慧ありと思ふ兒でも、親心の充分を了知することは出來ぬ。あゝ、深い、深い而して清い勇ましい子心。自分は何よりも、之れが欲しいのである。

親心の教養

▲子女教育に對する母の務（其四）▼

海老名　みや子

妊身十ケ月の間に次第〳〵に胎兒とゝもに發育し來つた親心は、呱々の聲と共に實現して來るのであります。二十にもなるやならずの、若い〳〵、また娘時代ならば、リボンよ花かんざしよと自分が親におねだりする位の人が、もう嬰兒を抱て人の母といふ名を受る樣になると、丸で氣持が變つて仕まひます。母親に揺起されても〳〵、いぎたなく寢込んで居る位の年頃だのに、抱き寢の嬰兒が

チトの身動きにも目を覺まして、甲斐〲敷其世話をするではありませぬか。濡れた冷い所には、自ら伏せるやうにして、一意專心嬰兒をはぐゝみ育てるのを見ましては、いぢらしい樣な、貴いやうな何ともいひ難い感を起して涙ぐまるゝのであります。これは獨り人間のみではありませぬ。下等動物にもこの心が備はつてをるのであります犬猫の如き於きましても親しく其實例を見ることが出來ます。私の家にはいつも一疋の猫を飼つて居ますが、私は好んで雌猫を飼ひます。其わけは年々數疋の子を産みますが、それを上手に鄭重に、殆ど自身の寢食も忘れて、餘念なく育て上る其擧動が、誠に可愛のであります。少しく大きくなりますと何處からか小さな鼠をとつて來て子猫に與へますと、小猫は大喜びでじやれて騷ぎます、母猫はさも〲愉快そうに跳めてをります。どんな好きものでも子に與へて自分は食べませぬ。小猫が犬や他の猫にねらわれて危き場合には自分一身を賭して護ります。其權幕は實に恐ろしいもので、巳れよりはるか力の優つてる犬でもとてもかなひませぬ。子の爲には全く自己を忘れはてゝ居るのであります。只下等動物の悲しさには、此母子の關係の時期が如何にも短かいのであります。三四ヶ月も立ちますと、だん〲薄らいで來て、半年一年と立つ間には、全然其情合は消へて仕舞ふ樣です。人間におきましては我生命のあらんかぎり續くのでありまして、たとへ其子は親の顔も見知らずして死してしまひましても、親は生涯其子の年を數へるではありませぬか。此の恩愛の光は、上は九重の雲深き所より、下は雨もる軒場の中にもあまねく照つて居るのであります。この貴い親心は恰も嬰兒の體を養ふ爲に温かきあまき乳汁が母の體から流れ出るのと同樣に自然に湧き來るのであります。

然るにどんな貴い賜でも何の教育も加へず自然のまゝに任せ置きますと、時々あやまり働く事があります暗ならぬこの親心も子を思ふ道に迷ふ例は屢々きく所でありまして、自身名々もこの經驗をするではありませぬか。子供可愛やの情を用捨もなく其子の上に灑ぎて、氣隨氣儘に育てたあげく又更に其親心はあらんかぎりの涙をその上にそゝいで居るものは決して少くはありませぬ。これは餘所事ではない。子を持つ親はかゝる事を見きゝしては、戰慄して警戒を加へなければなりませぬ、恰も甘き菓子を子供の欲しがる儘に與へて、腸胃を傷ひ病人を作つて嘆くのと同樣です。この樣に教養なき親心は知らず〲の間に姑息の愛と變じて居まして、寧ろ最愛の子を傷ふものとなつてしまひます。さらば

如何にして親心の教養を爲すべきや

といふ事に付て聊か氣付た事を申て見ましやう。勿論親心の教養と申て、別に講釋を聽くでもなく、又其理屈を研究するでもありませぬ。全く實地修養でありまして、時々刻々我子に對して起る所の親心が、正當に道理の上に立ちて、働く樣に務める事であります。嬰兒が生れるや其時より此機會はあるのであります。例へば哺乳の事に付ても直ちにこの修養がいるのであります。嬰兒には二時間乃至二時間半を置いて乳を與へる事は子供の爲によいといふ事は皆承知して居る事であります。これは至て單純な事で何でも

ない樣は事ですが、扨てこれを實行することは、そう容易な事ではありませぬ。場合によつては一奮鬪しなければなりませぬ。乳を與へて一時間もたつやたゝずに嬰兒がむづかります。おむつが濡れたのか何かと少しく手を懸て見ましても、止ませぬ。そうすると親はもう堪まらなくなりまして、オヽ誰が〳〵とさも惡い事でもした樣に乳を與へて仕まひます。これは其子に對して正しき親心をそゝいだのでありましやうか。無論間違つてゐるのであります。それに反して暫時忍び難い情を忍んで、正當の時間に乳を與へて御覽なさい。其時は實に心持がようございます。何となく子供に對して最上を盡した樣で、子供もよき習慣を與へられて、一回二回三回と過す間に、チヤンと定まつて何の苦心もなく實行せられる樣になります。最初のこの簡單な事實に於て忽ち親心の敎養は受けられます。かくして樣々の事に出會する毎に、ともすれば姑息の愛に溺れんとするのを打勝ち〳〵して行く中に、子供も親心も立派に成長して行くのであります。この誤謬なき

親心はとりも直さず
神心

でありまして子供の爲には守り本尊です。何と尊い賜ではありませぬか。私はしば〳〵感じます、子を親が育てるのであらうか、子が親を育てるのであらうか。言を換へて申ますと子を育てるのは取りも直さず親を育てるのでありますまいか。實に女は子を産む事によつて救はるとは尊い眞理であります。子女の敎育と親心の敎養とは同時にほどこさるべきものでありまして決して離す事は出來ませぬ。今後引續て子女敎育に關し實際の事柄に付き皆樣と研究せんとする時には此親心の敎養の仕方に付ても必ずともに研究して見る事に致しましやう。

最後に尙一言を添へます。敎養なき親心は誠に狹隘不公平なるものでありまして只々我子の上にばかりに灑がれるのであります。御覽なさい、自分の子に對しては目も口もない程の子煩惱の人に限つて案外他人には冷酷なものであります。元より我々凡人が我子も人の子も一樣にとは望むべくもありませぬが、此正しき親心は我子の上にのみ限らず、他にも及ふ所のものであります。何故なれは此の心は世の凡ての人を皆我子と視玉ふ天父の大御心より流れ來たものでありますから、我子善かれと思ふ時には、人の子も善くあれかしと願はずには居られませぬ。これを推廣めては博愛慈善の上にもそゝかれまして、一家の母は社會の母又一國の母となり得るのであります。斯る母親にして始めて靈肉共に健全なる人間を作り出すことも出來ましやう此貴い賜を私共凡ての母は一樣に賜はつて居るのであります。故に、私共は眞に感謝し且つ自重してかりそめにもこの賜を誤まり用ふる事のなき樣つとめねばなりませぬ。

治療し得べき不具（承前）

金子魁一

二　後天性顔面醜形

前號に於て先天性顔面畸形に就てと題して、最も多くある兎唇を記載いたしま

したが、其他にも生れつき口が斜に裂けて居つたり、又横に裂けてつあつたりする事もあり、鼻柱に大な欠損があつたりする事等種々の造化の戯がありまするが、之等は甚だ稀有の事でありますから詳しく述べる事は止めまして、直に生後に疾病外傷によりて生ずる不具者のお話をしようと思ひます。それで先つ鼻部の醜形より始めませう。外傷、梅毒、狼瘡、水癌などに冒かされたため、又は疾病のために手術した結果、其の後に鼻の全部又は一局部が欠損を來して甚しき醜形を貽す事は決して少くない。又は欠損はなくとも、鼻の形體整はず鼻柱が低きに過ぎ、又は彎曲して居るものなどもある。是等が小兒の時代からある時は別に何等の原因あつて來るものでない。但し成年以後に梅毒のためにかゝる醜形を來たす事は勿論ある。既に鼻の形狀が惡いといふ丈けにて、全顏面に大影響を及ぼすのであるから。一局部などに欠損でもあれば氣の毒なものである、然し今日では是等にも適當な治療は施さるゝ樣になつた。

▲造鼻術

之れは鼻の欠損の際に行はるゝ手術療法でありまして。最も古くから行つて居つたのは、印度の醫師であります。是れ印度では、昔、鼻刑といふて、罪人の鼻を切つて、後來の戒とする事が行はれて居つたがため、一方に於て、治療法も發達したのであります。今日でも印度法と申して行はれて居ります。此の方法は額の皮膚を切り剝して、鼻を造る方法であります、此際額部に欠損が生じますけれども、皮膚は元來彈力に富んで居るから、之れを縫ひ合せる事は困難でない、創痕も可なり奇麗に治癒るのであります、是の方法では單に皮膚のみで細工するのであるから後に萎縮する恐がある。それ故に改良を加ひて皮膚と共に前額より骨を切り取つて鼻梁を造り、其上を皮膚で包む事にする、斯すれば萎縮する憂はありません。

造鼻術には又伊太利法といふのがあります。之れは十六世紀頃から伊太利國に行はれ今日では可なり廣まつて居る方法であつて、是の方法では決して前額を傷ける事はしない。皮膚の瓣を上膊よりとりて細工するのであります。それであるから、印度法に比較すると顏に傷を造らない丈利益である、それでもまた、鼻の小な局部の欠損の際には、頰部から皮をとりて造る。

以上の外にも澤山手術かあるが、其の治療の原理は、同じ事である。患者が若し治療し能はざる程身體が弱いとき、又は手術的治療法を拒む時には、セルロイド、又は軟護謨製の義鼻を用ゐて見るのである。

▲隆鼻術

鼻の形狀を整正する法は、即ち隆鼻術で今日日々の新聞紙に廣告を見る所のものである。是は誠に簡單な方法であつて、被術者にとりては實に有難き事になるのである。手術といふても注射療法であるから、局所麻醉で無痛の狀態で治療を受ける事が出來るのである。注射に用ゐらるゝのは、攝氏寒暖計六十度内外で融けるパラヒンである、之れを注射器に入れて鼻の凹んだ皮下に注ぎ外部より形體を整ひて行くのである。注射であるから、

顔面に創を作らない、又一度施術すれば永久其の形を保つのである。素人はパラヒンが中にあるので夏の熱き日などには融けて仕舞ひ却て醜くなるだらうなどと云ふものも多いが。決してそんな事はない。常識で考いても人體の温度は三十七度であつて、四十五度以上になると生命を保つ事が難い。それ故パラヒンの融ける六十度に人體は保たない。パラヒンより先きに生命が融けて仕舞ふのである。それであるから、一度施術して貰うた後は、赤道直下に行つても大丈夫である。

『味の素』の話

鈴木衡平

●割烹令嬢の商標が付いた「味の素」と云ふ名稱の調味料が賣販されておりますが之れは化學上如何なる物質であるか又實用上如何なる價値あるものかと云ふことは家庭料理者に興味ある問題であらうと思ひます。

●味の素の主成分及び發見の由來とも云ふべき興味多き記事が池田菊苗博士の報告中（東京化學會誌四十八年八月號、新調味に就いて）にありますからそれに從ひその大意を御紹介申しましよう。

●元來吾人の味覺に感ずる味を大別すれば酸、甘、苦、鹹の四種（辛は皮膚を刺激する感覺と同一である、又澁は蛋白質を凝固させるときの刺激であると云ふ點から味として認ぬのである）としてありますが、尚此の外に一種のうまみとも稱すべき味があるであらう。而して總ての食物に共存してある物質であらうと云ふことに博士は着眼せられ、先づ昆布の煮出汁に就いて研究せられたのであります。それは昆布の煮出汁を蒸發して濃稠となし、之れより食鹽、鹽化カリウム、マンニット（砂糖に類似したる物質）などを分離し、最後にうまみを舌に感じ得る一種の結晶物を取出し得た。此結晶物質は化學上グルタミン酸と云ふ化合物である事が知られ、之れが昆布中にはグルタミン酸ナトリウムとして存在すること又グルタミン酸ナトリウムはグルタミン酸よりも一層強くうまみを感ずると云ふ事を發見せられたのであります。

●此グルタミン酸と云ふ物質は水に溶解し易き無臭白色の窒素化合物であつて、白蛋質（卵の白身は蛋白質と水から出來て居ります）の分解成績物であること、麩（グルテン麩素と云ふ一種の蛋白質であります之れは小麥粉を布袋に入れ水中に揉みますと生麩（小麥澱粉）が出て袋の中には鳥黐の樣なものが殘ります之れが麩であつて熱すると燒麩になります」を硫酸又は鹽酸煮沸すれば製造せられ、肉汁や醬油の中などにも存在すると云ふ事は既に化學者間に知られて居つた事實であります。併し之れがうまみを呈することと昆布の煮出汁の中に存在すると云ふ事は池田博士が初めて見出されたのであります。

●又博士の實驗に因ると此グルタミン酸ナトリウムは甚だ呈味性の強いもので、例へば砂糖は二百倍食鹽は四百倍に稀釋すると殆どその味が感じないのに、グルタミン酸ナトリウムは三千倍に溶すも尚うまみを失はぬと云ふ事であります。

●而して又食鹽との混合味は化學上からは幾分うまみが減ずべきでありますが、實際は……吾人の食餌は常に食鹽を含み居

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る爲めか…却て増加する如く感じ砂糖と混ずるとも何等影響を受けませぬ。但し酢と混合すると幾分呈味性を減じると云ふ事であります之れは理論上からも明になつて居ります。

●次にグルタミン酸の營養價に就ては蛋白質の分解物であり、窒素の化合物であり、且生肉中にも存在して居ると云ふ點から考へても調味料として充分價値あるものと思れます。

●上述によりて調味料「味の素」の主成分がグルタミン酸ナトリウムであり又其製造原料として昆布よりも廉價なる麩を用ゆるであらうと云ふ推察が出來ようと思います。

●最後に「味の素」の實用上の價値如何でありますが、之れは私は試驗場即臺所を未だ持たぬ一人でありますが故に批評する資格がないのであります。併し御膳上の實驗と多少の考がありますから御參考まで申上ます

○市販の「味の素」は白色の結晶性粉末であります、之れを極少量舌上に試むるに著しくうまみ（鰹節の煮出汁の樣な又昆布の樣な）を感じます又鰹節を用ひざる醬油の汁一椀（凡一合）に「味の素」を箸に少量附けて投じ味ふに加へざるものに比し明かにうまみ多きことを感じます（此割合は五椀に對し凡そ一分即二千分の一）

●併し吾人味覺の嗜好は復雜なる場合が多くありまして、常に調味料として用ひらるゝ鰹節、茸、昆布等にはそれ〴〵うまみの外一種獨特の風味が伴ふており、互に代用し難い場合があります。故にグルタミン酸ナトリウムが主成分となつてある「味の素」が學理上調味料として價値あるものとするも（實際私の知人には鰹節全廢などと實讃して居るものもありますが）全然鰹

節の代用とすると云ふ如きは各人に適するや否疑問であります。且嗜好は習慣性の強いものでありますから尚更であります。

●本品の特徴とも云ふべきは餘り風味に乏しい點即無臭であること、他の味と調和すること、冷温何れに於ても水に無色に溶解し易きこと、少量にて足りること等でありますから、一長一短ありて鰹節との優劣などは斷言し難いのでありまするが若之れを工夫して適用したならば、時間と勞力の經濟、新規の調味、食物の外觀を損はぬこと、(汁の色を着けぬこと又濁らせぬことなど) 魚臭を避け得ること(精進料理用)などの便益鮮からざる事でありましよう。

●家庭料理の如きも舊來の材料により殆ど一律の調味法のみに止まらず、幾分にても進歩せる學術應用の製品を試用して工夫したならば、必ず興味と實益と共に増進して行くこと丶信じます。私は爰に化學者によりて一種の調味料が發見せられたる事實を報じ併せて研究材料として「味の素」を諸君の家庭に御紹介申ます。

日本下女は『家庭の仙女』

(日獨郵報より轉載)

英國倫敦のボービー夫人は大の旅行家で、世界中足跡の達せない地はないと云ふエラ物であるが、夫人は非常な日本贔負で、殊に日本婦人の親切、信實、温和等のあらゆる美點を備へて居るのには痛く感謝し、恐らく世界中日本婦人に優る程の優さしき女性を持つて居るものはあるまいとまで賞讃したとの記事が、同地某日刊新聞に載せられてあつた。

同婦人は、今から二年前英京倫敦に足を止め、最初は此地を永久の居住地とまで定めたが、何しろ普通の桂庵から來た料理番や女中共が横着で亂暴で不安心な事許りするので、ツク〴〵嫌になつた結果が、世界漫遊を思ひ立ち、序手に日本に寄つて見ると、成程噂の通り風色明眉、國民の優雅にして同情心に富んで居ることなどを見ると、始めて世界の樂園は日本だなと考へたので豫定の日數が空しく經つても出發したくはない、ソコデ日本の紀念として其の地を去に臨み、安藤仲子と云ふ娘を下女に雇ふ事にして倫敦に伴れ歸へつた、處が仲子は年が若くて容貌も立派で且つ非常に柔順で、善く働く、而して何事でも正直で親切にして具れる、夫れに言葉や習慣なども間もなく覺わたので、夫人の喜びは非常なもので、總ての點に於て世界中日本の下女に勝るものなく『家庭の仙女』とまで賞讃せしむるに至らしめたが、更に夫人は其の使ひ方に就て云へる樣、日本の下女は歐米の下女等の如く主従の關係極めて冷淡ならず、至つて家族的生活を希望するらしい、從つて月給よりも待遇と云つたような風なれば、ツマリ友人見たように使つてやらねばならぬ、然し夫れが爲め増長して身分を忘れる樣な事は萬々ない、安藤仲子なども最初の契約は月給よりも待遇にて三ケ年後には歸國したいと云ふ簡單なる條件であつた、であるから日本下女なら歐米各國の內、どこに行つても主従の間に思違ひや杆格の起る樣な事は決してないと云つて居る。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

基督の家庭

海老名彈正

彼は木匠にあらずや、マリヤの子、ヤコブ、ヨセ、ユダとシモンの兄弟にして、その姉妹もこゝに我等と偕にあるにあらずや。(馬可傳六の三)

基督の幼少であつたときの傳へは、昔より澤山ありまして、聖書の中にも少々書きのこしてありますが、その多くは確實なる事實とは思はれませぬ。けれどもその確なる僅の事實を土臺にして調べて見ますれば、小供澤山の家庭であつて日々賑やかに暮し、母上の骨折は一方ならなかつたのでありましたらう。男兒が基督を加へて五人あります。娘子は少くとも二人以上でありますから、七八名の子女があつたのであります。ユダヤ人の家庭は昔より子澤山の方であります、基督の家庭が特別に多かつた譯ではありませぬ。母君マリヤの事はよく分つて居りますが、父君ヨセフの事はくわしく傳へてありませぬ。時にヤコブは後日エルサレム教會の監督たる地位を有しゝ程に勢力を有して居つた人であります。又その人格は極めて嚴格にして、敬虔の化身といつてもよい程であつて、パリサイ派の人々にも尊重せられた方であります。ヤコブが殉死したる曉にはシモンがエルサレム教會の重位を占められたのを考へて見れば、基督の家庭は敬虔の標準である偉人を起したのであるが故に、父君も母君も最も敬虔なる人々であつたことが推し量られます、彼等はパリサイ派に屬して居つた人々かと思はれます。パリサイ派といふと何にか僞善者の仲間でもあるかのやうに想像されますけれども、是れは思ひ違ひであります。保羅は自からパリサイ派であつたと自白して居ります。しかもその行ひの卓越して居つたことを誇つたことでありました。基督もその弟子共に爾曹の義がパリサイの人の義よりもすぐれずば、天國に入ること能はずといはれました。之れにてもパリサイ派の人々が比較的敬虔にして行ひがたゞしかつたことが分ります。基督の父母は敬虔にして義人であつたことが推量られます。又父君も母君も偉人を生

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

みいだす健なる人格を有した人々でありましたらう。基督は別人として見てもヤコブとシモンの如き人傑の生れたのは決して偶然とは思はれませぬ。

基督も公人として傳道を始め給ふまでは、大工の仕事をなして居られたことゝ、又「彼は大工の子にあらずや」との言を見ても父上が大工であつたことが分ります。大工といへば我等には忽ち無學文盲といふ想像を起さしむるのであるが、そういふ譯にはいきませぬ。大工であつた基督は決して無學な方ではなかつた。舊約聖書には精通して居られた。保羅も天幕を作つて生活して居たことがあります。ヒルレルといふ名高い道學先生も大工であつたといひます。富裕の人でなかつたに相違ないが赤貧ではなかつたらうと思ひます。兎に角勤勉なる勞働者であつて、一家十人ばかり樂しく暮した家庭でありましたらう。父上始め母上も兄弟姉妹たちも舊約聖書を讀み、イスラエル民族の救ひにつき、共に語り、共に祈り、共に希望を燃して居られたのであらう。

さてこの美くしき家庭は都會の日影薄暗い、空氣の汚れた所であつたらうか。否々、ガリラヤの片田舎でナザレ村でありました。家屋は近隣と軒を連ねて居つたスリヤ式の建築でありましたらうけれど、父君ヨセフは建築家であつたから、基督は專ら戸外の生活をなされたのでありましやう。又兄弟姉妹と相提携して家外に出で給へば、ナザレ村を見下す高平原に登るより外はありませぬ。こゝは晴やかな所でありまして、西方には地中海が見ゑます。昔より此海を大海と申てあります。西南にあたりましてはカルメル山脈が青空に聳ゑて、急に大海に落ち込んだ樣子は大に注目をあたひします、しかしてこの山は昔しエリヤが雨請した所でありまして、之れには愛國心をもやす傳説が結びついて居ります。其邊を廣く徘徊して居りますと、ガリラヤの美しき平原より湖水までが見ゑます。又エスヅライロンの平原は古戰場でありましてユダヤの歴史が眼下に讀まれるのであります。ナザレ村の高平原は多くの草花があります、中にも温き風にゆられて美しき香を放つ百合花が立ち並んで居る姿は何んとも形容が出來ませぬ、耶蘇はソロモンの榮花の極もこの花の裝ひに及ばぬと仰せられました。基督の姉妹は之を手折つてその兄上に持つてこられたことが度々あつたらうと思ひます。雲雀や鳩や青鳥のたぐひが人なづかしく近寄ると申ますが、定めて童子なる基督の深き興味を引き起したのでありましやう。基督は此美いしき景色に見とれて、神の靈氣を呼吸せられたり、その兄弟姉妹と樂しく辨當を持參して食べられたり、又時々天空の鳥もその御馳走にあづかつた事もありましたでせう、北方の天に聳ゑて四時白雪を載くヘルモンの嶽は基督の小供心をイン

スパヤーしたこともあつたらうと思ひます。後日彼は遂に此嶽に登られたやうであります。耳ありて聞き、目ありて見る人々にはナザレ村の自然界は正しく神の國の啓示であります。基督の受けられた自然界の教育は實に多大でありましたらう。

ナザレ村は山里ではありましたが、人馬の往來繁き所でありました、エヂプトのアレキサンドリア府よりガザ府を經て東北のスリヤ國に通する往還がこの村を通りぬけて居ります、又地中海の東海岸にあるトレメアス港はナザレ村の西に當つて里程遠くありませぬ、この港に通する道路もナザレ村をつきぬいて居ります。故に帝國の中央羅馬府に起つた事柄は大小漏さず手に取る如く基督の周圍に噂さるゝのであります。之を要するに南はアレキサンドリヤ府、東はダマスコ府、北はツロとシドンよりアンテオケ府地方、西は羅馬府に行はるゝ事件は一切基督の家庭の話柄となります。父上と母上とはいふまでもありませぬが、弟君のヤコブもシモンも又はユダ及ヨセフも各々意見を附して基督と共に天下の形勢を論せられたのでありましやう。近き過去に於てユダヤ國を起したマカビ家の有様を見れば、その住家は山里で父マタシアスを始め五人の男子志を合せ協心同力して義軍を起し、終に獨立を全うしたのであります。又ガリラヤの主戰黨の首領ユダ家は父を始とし三人の男子孰れも狂熱の敵愾心を懷き相續いて戰死しました。是れは基督と同時代の人々であります。ナザレのヨセフ家も亦人物の家庭であつて、親子兄弟九人の團欒は眞に頼母しく、又美しく、氣概ある敬虔の交でありましたらう。マカビ家にも優り、ユダ家にも優りて、世界的の思想が此家庭を支配したのでありましやう。時にはこの樂しき清き家庭にも無常の風は吹きすさんだのである。基督傳道のとき父上ヨセフは居り給はない。基督齡二十を越ゐ給ふた比父君のヨセフは他界に移られたものと見ゐる。子女七人と共に後に遺された母君の悲哀は察しても餘りある程であります。しかも基督は年少者ながらもその弟妹を監督し、養育して、母君を慰藉せられたのであらう、是れその妻帶して居り給はなかつた最も大なる理由と考へられます。

かくして細き煙を揚げて暮しつゝあつた勞働者の一家は、世界を指導する人物の團欒であつて、その信仰と希望と博愛との氣焔は大空を衝いて居つたのでありましやう。又この家庭の清き泉は流れ〳〵て終には世界中の總ての家庭をうるほすのであります。清き山里の家庭も亦光榮あるかなと歌ふ外はありませぬ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

本誌に對する批評

一

日本女子大學校講師　村田　勤氏

新女界は新人の妹であるかのやうに存じます、そしてその間がよほど長いから誰もその生るゝ事を豫期してはゐなかつたと思ふ。

新女界の初號を十余年前に生れた新人に比べて見ると（新人一、二、三、號は紀念として尙保存しあり）大層な違である。十年前の新人は昔海老名氏が熊本にゐられし頃、熊本英學校の生徒が出しておられた南海思藻とかいふ雜誌に似て、內容はコツ〳〵で外面は武骨千萬でありました。時勢の進歩と生み落した母方のお心盡しの爲か、新女界は襁褓の中から穎悟で淸楚で又可愛らしいやうに思はれました。新人が十年間に發展した比例で新女界が兄さんの後を追うて着々進步したら、前途は眞に望洋否寧ろ後世畏るべしの感があるやうに思ひます。何卒海老名夫人元良夫人を首として松井野口その他巾幗スタッフの御盡力を仰ぎたい事であります。

二

廣島高等師範學校敎授　栗原　基氏

文學が世に裨益ありとせば、一方に於ては慰藉、和樂を供し、一方に於ては刺激、指導を與ふることにありと思ひます。而して女子を目的とせる雜誌文學の如きは、成るべく慰安、和樂の中に女性の美質を暢達發展せしむることがよい。女子に對して餘り多くの注文を要請したり、或は女子の欠點杯を論議して、これによりて子女も敎化せんとするが如きは、甚だ意を得ないことです。此種の雜誌も、隨分多いことであるが、自分はこれを稱して姑雜誌と申します。寧ろ女性は愛の恩澤に潤うて優美なる性格を全ふし、博大、高潔なる同情犧牲の德に進む樣に、女子の雜誌も何處迄も、淸風吹き通ひ、花香薰ずる間におのづから天眞を發揮し天恩を認むることにしたいものです。此點に於て我が『新女界』にありては、賢明なる諸多媛の奮勵と、常識ある諸名士の翼贊とによりて、大體に於て、我が意を得て居ると云るべきでせふ。未だ其理想に達したとは申しませんが、此方向に心がけつゝあることは事實です。『男兒は大理石の如くに鑿にて刻んでも無難であるが、女兒は花の如くであるから、無理をせずに、丁寧に之れを育て上げ、日光と雨露とに親み、寒熱を避けるが肝要である』とはラスキンの女子敎育論の一節です。成るべく此心にて健全豐富なる趣味を皷吹し、進步發展の氣象を推奬し、圓滿潤達なる性格を完成する樣にしたいものです。これが『新女界』に對する一片の希望です。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

三　基督教世界記者　有富虎之助氏

●手料理主義は新女界の特色で、今號の十二月の如きは初見參の兄樣のお得意の運動談、實に嬉しく、八百膳よろしくと頂きました。手料理主義も茲に至つて上乘と云ふべしである。唯僕の考では數々の心盡しのお手際の中に、一二品でもお誂へがあれば、一段と御馳走が引立つやうに、時には諸大家の原稿をも載せるのが讀者に歡ばるゝ基で、决して新女界の威信を墜すことでないと信じます。

●頃者藤村の「新片町より」を手に入れ、其中の女子の教養に就てと云ふ文を讀んだか、寔に興味のある、そうして徹底した文章たゞ熟々思ました。この人や蘆花氏や、其他信者ならざるも眞面目な、そうして基督教に同情ある現代の名家に請ふて新女界のため特に書いて貰つたらよいかと思ふ。勿論人によりこは出來ぬ相談でしようが、どうも訪問錄よりも手づからものした原稿が有難いやうな氣かします。

●夫れから文藝欄です。新女界の樣な方面のきまつた讀者を有する雜誌は、矢張り人の宗教性に因んだ清い高い意味の文字を載するのがよいと思ふ。斯う曰ふと、夫れは囚はれたる文藝だと申す人もありますが、僕は如何に現代の一派の作物が人生の眞をうつせばとて新女界には禁物だと思ひます。何にせよ餘りにかけ放れた作品はいかゞと思ひます。

●要するに僕は我國の家庭の中に、否女性の間に基督教的空氣の充溢を望むので、願はくば新女界をして一面其鼓吹に任じて貰ひたいのである。僕は我國の家庭を佛蘭西のそれの如くしたくない、英國の家庭の如く致したい、之に與つて力あるものは健全なるそうして新清なる文學だと思ひます。

●以上は新女界の想苑又は文苑の方面で先生や安井女史の社說、又は教壇等に就ては固より一言の申條はない。また婦人の識見を啓くてふ方面に於ても同樣です。

●家庭又は雜錄。奥さん（海老名）の實驗的諸記事は實に每號の呼び物で僕の知る讀者は何人も再讀三讀いたします。がこう一人の持ち切りではお氣の毒にもあり、又惜しいものです。外の奥方も打つて出てはいかゞ。

●餘り立入りますが「ゆきあたりばつたり集」と云ふ名は、如何に贔負耳に聞いても感服しません。其癖內容は馬鹿に面白い。承れば之れは百までも二百までも續くそうですが、ロンドンの兄樣に相談して何とか名實相應のよい名をつけて讀者に快感を與へたいものです。

●僕の知れる一讀者が「わたしは新女界をよみ初めてから餘所樣で女學世界や婦人世界など出されても、一向見る氣になれず、只もう口繪ばかり見て、目次すら心をとめて見ませんがなせでしよう」と云ふ事を聞きました。果然之れは新女界將來の發展をトするに足る言ではあるまいか、思出したまゝ附言いたします。妄評多罪

四　杉山恒氏

私は貴社御發行の新女界は最初よりの諸者の壹人であります、誰しも家を持つた初の時は、家內の用も割合に簡單でありますから、色々の雜誌も讀む暇もありますが、年月を經るに從ひ家族は增し自と內外の用務が中々に複雜になつてまゐりますと、一々讀む暇もなければ、經驗にて多少消極的方面の智識は得られま

すから、以前の如く讀む必要もなくなります。しかし一方には年月を經るに從ひ眞面目に一家の主婦となり且つ女子教育の程度の進むにつれ、また外部に於て種々なる人々と交るにつけ、益己が修養の必要を感じます。是等に對し積極的方面の智識を渇望する念が日々切になつてまゐります。右の要求に對し女子の爲めに多くの雜誌が發行せらるゝ中にも新女界は最も適當なる眞に品のよろしき少しもいやみのない雜誌としていつも悉く拜見致しております。何卒長く此師友が健在せられて、益々私共に益を與へ給はん事を切に望んでおります。

五

陸奥　山里賤子氏

一

新玉の年立ちかへりて朝日の「光まばゆき今日、軒の端の雪解雫硯にうけて、謹みて都にはします師の君友の君の萬歲を祝しまつる。

さて過日は此みちのくのはての賤の女に、「新女界」の第二卷を迎ふるにつき、第一卷の批評を物してよとの仰せに候ひしも、機織る業はさもあれ、何さてかゝるざねもなく學もなく別しては物書く業に慣れもせぬはした女に、さるおほけなき業の出來候はむ。たゞ夏は八重葎庭に繁く、冬は雪の扉深くとざす山里に住みならひては、あづまの空のみいとなづかしくて、このわたり都鳥もたえて住まねば、わが思ふ人のせうそく聽かんよすがもなく、月一度の「新女界」の配達は、われにありてさながら遠離の友人に對するが如く、谷の戸いづる鶯の春待ち得たる心地も致し候ものから、手に取りては息をもつかず、ページをも餘さず、讀みをはるを常と致して候へば、二千にあまるてふ愛讀者の一人として、おのが感じのまゝを、そこはかとなく書きつけ候べし。もとより人に見すべきものとは思ひ候はねど、御編輯の都合上、紙上に出さねばならずとならば、それもまた是非なく候。

二

先づ第一に思ひ出でられ候は、主幹海老名先生のいつも剛健にして飽くまでも男らしく、主筆安井先生のいつも着實にして飽くまでも女らしき御教訓にて候。げにもこのおん二方を本誌の双璧と仰ぎ候ことは、理想的嚴父と慈母とをあはせ得たるの心地致して、讀者の幸福こよなき次第に候。たゞ一口にかくは申候ものゝ、此等御教訓を嚙みしめてゆくうちに、海老名先生の御教への雄々しきが中に愛と情けのいみじうも深く含まれたる積雪の中に紅梅の薫ずるを見出でたるの心地禁じ難く、又安井先生の御示して優にやさしきが中に、一道の正氣人を壓するの概あるは、さながら懷劍を胸裡に秘めて己が生家を出で行く花嫁姿を見るのおもひなき能はず候。噂に承り候へば、いづれの頃よりにかあらむ、都にては「自然主義」とか「デカダン」風とか申候ものゝ流行致し候由、われら淺學、その果して如何なるものを指し候かを知らず候へども、若し此頃の文學雜誌に散見いたし候たゞ人生の闇黑面を描き出し候ものを申すとならば、そはげにも醜の醜なるものと存ぜられ候。婦人の生命は矢張どこまでも、愛と貞淑と溫順とに候べし。たゞ此の愛、貞淑、溫順の、正しき淸き氣高き意義に於ての夫れならば、申すまでもあらず候。「婦人選擧權運動」とかいふ唐國ぶりは、我が大和をみなへしの露をだにふるまじきことゝ存じ候。「解散されたる女性」と申す附喋の都の一部に流行致し候由なれど、人生は自由也、束縛は己が心也、束縛せられざる女性の解散せらるべき道理は候はず。高潔を無視したる外國文學の飜譯風の流行するは、實にも苦々しきことの極みに候。たゞ我が「新女界」あり、我が二先生を柱梁として我が女學界に獨行す。我が心はじめてやすし。願くは益々本誌を發展せしめて、滔々たる女學界の風向を一新するの力をも勢をも得しめたきものに候。わけても第二號の海老名先生が「眞に教育ある婦人」二篇、第九號の安井先生が「女子の修養」、識見の堂々として其聲の朗々たる、時流を拔くこと正に十段也。われらは切に兩先生の自愛加餐を祈らざるを得ず候。

三

許したまへ、こはあまりに筆談理に走りて、ゆくりなくも男のすなる議論めきたることゝ相成候。いざこれよりは再び前にもどりておろかしき己が感想を記しまゐらすべく候。

次ぎに著しき特徵と感ぜられ候は、いづれ日頃わ

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

れらの敬服しまつれる一味の諸先生が、所謂三階棧出にていそしみ給ふ一事に御座候。海老名、元良の二夫人を初めまゐらせ、お茶の水の宮川先生、早稻田の浮田先生、廣島の栗原先生、金子醫學士、谷津理學士、さては吉野、野口、小山、相原等新人社の諸先生の、數を盡し、勢を集めて本誌に力を致さるゝことに候。いづれもそれ〴〵長所を有したまへば、紙面の絢爛、千紫萬紅、百花の一時に咲きみだれし如くに候も、集まりては即ち大主義、大精神、大方針に於て一に歸す。さながら落葉の下くゝるいさゝ小川の集まりて洋々の大江を成すが如くにも見られ候。たゞ夫れ然り、然るが故に、時に或は單調の憾みあるは、げに詮方なきことにこそ候へ。わけても野口先生などの擔當したまへるよか聞く問答欄の消ね失せたる、金子醫學士の「家庭衛生談」の見ねつかくれつする、鼎浦先生の筆取り給はざる、已みがたき事情も候はんなれど、一人山里遠くはなれて、本誌一部を我生活の師とも友とも思ひつる此身には、げにいかばかりの失望と思し召すぞ。

さるにてもかゝる不平心の慰めらゝは、元良夫人の家庭實驗談と、海老名夫人の健筆自在なる家事修養談にて候。元良夫人のは、高潔質實なる學者の家庭の偲ばれてこよなく床しく、海老名夫人のは、宣敎に身を委ねて東奔西走したまふ宗敎家を助けて、如何ばかり清く美はしく愛に滿ちたる御家庭を營ませたまへるかを偲ばせて、いふべうもあらずなづかしく存じまつり候。わけても此頃は、失禮なる申分にはあれど、文藻一しほに臈たけたまひて、思ふがまゝなる御運筆花も實もある御筆づかひかな。

英國に在します内ヶ崎先生の「行き當りばつたり集」も每々まことに面白く拜讀致し居り候。われら山家に住み候ものには、不少見聞を廣むるの料と相成居候。

吉野先生にも近く御渡歐のたんねもむき、さて御洋行後本誌のために盡さるゝ、内ヶ崎先生といづれぞ、御滯濟中の「新人」に對するが如くにては不平に御座候よ。小山鼎浦先生何故此頃は本誌に遠かりたまへる。先生の筆つれに人を魅するの力あるを、此頃のたんつれなさ「新人」誌上にもあるかなきかのたんふるまひ、さりとは心弱きたん業よな。

四

本誌の特徵の他の一つは、御女性の身の自ら筆執り給ふことの多きにて候はむ。

女性の執筆といふにつけて、われらの逸すべからざる御二方あり。一は野口綺子の君。一は平山訓子の君。まことや此御兩所、常として筆執り給ふにあられざ、一度とりたまへば、光芒四射、流星の空際を掠むるの趣あり。詞藻の豐富なる、運筆の自在なる觀察の綺透なる、誰れかは御兩所の右に出でん。せい子の君が初號にものしたまへる「事務處のあけくれ」にわれはまづ醉ひぬ。久しうは姿を見せたまはざりしに、こたび十二月號の卷末にまた「編輯だより」を出したまへり、われは再び恍惚たるを禁ぜざりき。かつては山の湯に十日の夢を見果てざりし人、都に歸りては算盤も手にしたまひて會計のことにもたづさはり給ふさな、多情多恨の人よ、夫の君は綺軒と號したまふさきく、目白の高臺に對して、春秋旦暮のたん住居、さても如何にかたはすらむ、

垣間見たくも思ひ候。訓子の君の文、また得くとして可ならざるなし。横横の筆端一度觸るれば、萬物鏘鏗の響を發し、陸離の光を放つ夏期號「伯父さん」の一篇、は哀韻餘情人の肺腑に迫りて、其琴線を搔きむしる。われ此一篇を讀みて熱涙の紙上に落つるを禁ぜざりき。

五

つれ〴〵都の空にあこがるゝ身の、一度憶想しては感雲の如く湧く。われ思はずもあまりに多くを語り候ひぬ。冬の日の暮れやすくて、早や日は山背に落ちて候。山ふところの住居の、やうやくあやめも分ち難うなりゆけば、今數言を綴りて止み候べし。

わが「新女界」はまことに日頃の抱負の如く、「信仰ある姉妹の堅實なる伴侶」として此上なき導師にて候。其識見の嶄然他を拔いて常に遠く彼岸を指すところ、當今また比類を見ず。これ「新人」の姉妹雜誌として、眞に好配と申すべく候。たゞ願くば今少し多方面に亘りていたゞきたく候。單調は飽滿を招き易し、問答欄を再興し、更に文苑欄を賑はし候はいかに。さては家庭衛生談、家庭料理談、必ずしも時流を追へとはいはず、松間の櫻は色更に遠しとせば、變化はありてあしかるまじく候。隨感もほしく候。社中御同人のみならず、ひろく讀者より募集せられてはいかに。表紙畫も何とか工夫あるまじきや。

日け全く暮れはて候。あはれ日ねもす書きくらしたるわが筆の遲さよ。さらばこれにて筆擱き候はむ。終りに臨みて遠く都にたはします師の君、友の君の萬歲を祝しまつる。妄評多罪。

隨感

一

海老名彈正

山里に耕す農夫の一度宇宙の神を見出したるときの嬉しさはどうであらうか。彼を照らす大陽は曾て思ひも寄らなかつた光の文を輝かして照り渡る、曉の明星も山の端を破る朝日の輝きも、西に搗く夕日影も、もしくは金なす大空の光もその敬愛する神の聖影を映ずるものかと疑はる。我が父は今に至るまで働き給ふ、我も亦働くなりといひ給ふ神の子が如何になつかしく慕はるゝであらうか。その植え付る山の木も、その育つる田畑の植物も神の靈氣に養はれて、青々と生長するを目撃しては、敬虔なる農夫の心は如何ばかり難有い事であらうか。分けても尋常の農夫が暇毎にしばし草土に腰かけて煙草を吸ふに反し、この敬虔なる農夫が聖書を繙き、又は宗教雜誌の六ヶ敷議論を繰返し又繰返して讀み去り讀み來るが如き、我は覺えず山里の生活が慕しくなつて堪へられない。且又家庭にありてはその妻が新女界などをたどりよみして、燈の前にその夫と子女の敎育を相談するが如き、如何に貴きことであらうよ。

我れ嘗て作州津山の擴張傳道に行きしとき、五里を隔てたる山里より二人の青年農夫が來つた、夜更けて復た幾多の山々を越えて歸つたのであるが、その歸るとき態々我に別を告けに來り、如何に新人を愛讀し、又新女界をも愛讀しつゝあるかを語つたのである。我は東都の青年學生が薄志弱行にして墮落し易く、思想淺薄にして變り易きを見て、兎角悲觀の雲に蔽はれ易く、何とはなしに心浮立たざりしに際し、この健なる青年農夫を見て、心中頓に活氣を催し來り、斯る青年が山里に增加して、一萬人又は十萬人にも達するの日あらんか、如何に美はしく雄々しき帝國が復活し來るであらうかと、希望の靈は忽焉として我に光輝ある將來を見せしめたのである、百萬の貔貅は國家の干城であるが、我は道義強健にして勤勉なる十萬の青年農夫を以て實に國家の柱石と信する。その國家を護衛する點に於ては寧ろ百萬の貔貅に優るものありと思ふ。彼の二人の青年農夫との告別に臨んで握手したのであるが、その手裏の皮膚が如何に強堅なりしか、東都にては僅に少數のチャンピオン等が匹敵することが出來るのである。神の靈を宿し奉る壯健なる身體は何ぞ獨り彼れ一代の幸福ならんや。その子々孫々をして永久にその祖先の健全なる血統を祝せしむるのであらう。我れもし我が身を二分するを得んか、一は東都におき、一は山里において百萬の貔貅よりも頼母しき帝國の干城を造らんと欲する。山里の傳道もこゝに於て無限の價値あるをあかしする。怠るべからざるは山里の敎化である。眞面目なる村夫子の生活も亦樂しきかな。

二

安井哲子

▲淑女たらんとする者は、心正しく、且容儀も上品でなければなりません。斯くなるには常に自重する事が必要であります。現時の青年女子は動もすれば、親敎師等の監督者に知られなければ、淑女として行くまじき所に行つても、爲すまじき事を爲しても、差支ない樣に思つて居

る人が少くない樣に見受けます。眞に正しい上品な人とならうとする者は、自ら求めて親や尊長の忠言を得たいと望むで御座いませう。年の若い折は未經驗に乏しくありますから、萬事學習の時代であります。然るに此時代に自分天下になりすまし、精神上にも、形の上にも服從する者が、此世に一つもない時には、將來に於て不幸な生活を送らねばなりません。其故に彼等を敎導する人々は、彼等の自重心を養成し、自ら耻ぢて不良の行爲をせぬ樣に導かれたい者であります。

▲私は新聞記者の方々に對して、社會敎育者の態度を取られん事を切望します。殊に靑年女子に對しては、弱きを助くる武士的、紳士的の態度を以て、苟くも强迫的の擧動のない樣に注意されたい者であります。多くの女子には正しくない者もありませう。彼等を適當に筆誅する事は、其理由もありませうが、時には事實無根の事を、惡し樣に書かれて、非常に心を痛める女子を見受けます。刀にかけても名譽を保つた武士の子孫たる吾々が、如何に時代が違つたとて、他人の名譽を、利慾や慰みの爲めに傷けても耻と思はぬ程に、墮落する筈はありますまい。殊に未來の多い靑年の女子を、無責任の一筆で誤らせ、當人は勿論其父兄までにも非常な迷惑を與へるといふ事は、實に大きな罪であります。かゝる記者も亦人の父たり、夫たり、兄弟でありませう。我が娘、我妻、吾姉妹に對して、かゝる毒舌を揮ふ勇氣がありませうか。現代高潔な靑年女子を作り出す事の困難であるのは、新聞紙の記事が、是等の人々に余り下等な敎育をするのが、主な原因の一であるといふ事を敢て言はねばなりません。

三

元良よね子

▲知人の一人が「子を持て知る親の恩といふけれどもあれはどうも少し當らない語だ」と申しますから何故ですかと聞きますと、「誰だつて自分を生み、さうして養育して呉れた親の恩を知らない者はありますまい、僕だつて未だ子を持たことは無いけれども其位なことは知てゐる」と云つて威張てをられました。成程其に違ひありますまい。鴉ですら反哺の孝ありとか申しますもの、人にして親の養育の恩位を知らぬ者はない筈です。しかし私自身の經驗から申しませばこの語は餘程味のある語だと思ひます。私は己が子のかはいさ加減を經驗し、子の爲めなら時には己を犧牲にするとも決して辛いとも思はず、殆ど我身を忘れて子の事を思ふにつけても、あゝ我が親も此樣に我身を愛し我身を思つて呉れたのであらう、親といふ者は馬鹿な子程可愛といふは、馬鹿な子が好きだといふ意味ではないが、不足な處があればある程親のあはれが増して餘分に心配するのである。して見れば我が父母はどれ程深い情を我身にかけてくれたのであらうと、今更に亡き父母が有難くなつかしさに堪へないのであります。

▲女子と小人は養ひ難しなどゝ言はれて、女子は人間の屑のやうに思はれてゐた時代もあるのに、今日の樣な女子敎育の道が開け高尙な思想を養ふことも出來れば、學理の研究も出來、あらゆる方面に發達して、男子と並び進むことの出來る有難い世に生れ合せた女子は何といふ幸福でせう。此幸運を逆用してハイカラ式な小人的女子となつてはそれこそ大變

です。どうか。若い方々はよく勉勵し、しかも女子はどこ迄も女子らしき謙遜柔和の德を養ひたいものです。

四

海老名　みや子

五つの針箱が臺の上に並びました。大きいのや、小さいのや、中位なのや。一番小さいのはあや子に、一番大きいのはかつへ。これは今年のクリスマスの贈物として皆んなに買つて與へましたのです。皆大喜びで、其中に鋏みやおへらや糸や、いろ／＼のものがちやんとはいりました。それで私はこんなお話を子供だちに致しました。

皆さんお聽きなさい。私が皆に針箱を買つて上げた譯をお話しましやう。今年は私は針箱教育やお机教育をしたいと思ひます。これはあなたゝち許りでなく家中の者がしなければならないと思ひます。私もお稽古します。御父樣や御兄樣にもして頂かねばなりませぬ。針箱教育はお机教育とはどんな事でしやうか。それはお机や針箱の引出をちやんと片付る事です。皆さん能くおきくなさい。我家の一番の欠點は何事もきちんとして居ない事です。一日の仕事が順序正しく行はれないで不規律であるため、終日仕事におはれ通しではありませぬか。そしてした仕事を見ると忙しかつた割には澤山は出來て居ない。まごつく、忘れる、ぼんやりする。時間が切迫して早く／＼とあせつて大騷ぎをする。丸で戰爭のやうです。これは全く物事が整然と秩序立つて居ないからです。これではあなた方のやわらかい幼ない頭腦を混亂させて疲らせる計りで、大きくなつて整然として一絲亂れない落付た立派な性格を作る事は出來なからうと思ひます。針箱をちやんと片付た心持はいゝ氣持でしやう。針箱ばかりでなく何もかもちやんとお片付けなさい。爲すべき時に爲すべき事をちやんとする樣に小さい時からよい習慣をつけて置きますと、大きくなつてもよく勉強もし、よく働らきもしお約束はよく守り、虚言をついたりよいがけんな事をいつたりしないで知らない中に立派な人物となれます。それで來年は家中のものが皆んなこのお稽古をする事に致ましやう。

本誌定價　一部金拾錢（郵税ナシ）◎六部半年分前金六十錢（郵税ナシ）◎壹ケ年分十二部前金壹圓拾錢（郵税ナシ）

外國行定價　壹冊金拾四錢（郵税ナシ）◎半年分前金八拾錢（郵税ナシ）一ケ年分前金壹圓六拾錢（郵税ナシ）

廣告料

行（廿七字詰）	四分ノ一頁	半頁	一頁	内表紙十二圓
金廿五錢	金三圓	金五圓	金十圓	外表紙拾八圓

●數回引續き御掲載の向へは大割引可致候
●本誌代金は總て前金に御拂込み被下度候
●郵券代用は一割增の計算にて御送附被下度候

通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず左の宛名に願上候

東京市小石川區小日向臺町
三丁目九十三番地
新人社事務所
振替貯金口座一四〇〇五

明治四十二年十二月二十八日印刷
明治四十三年一月一日發行

東京市小石川區林町四十三番地
發行兼編輯人　海老名彈正
東京市小石川區小日向臺町三ノ九三
印刷人　野口末彥
東京府下豊島郡巣鴨村大字巣鴨六百六十一番地
發行所　新人社
東京市赤坂區田町五丁目十一番地
印刷所　齋藤活版所

京都御染物

本檳榔子黑

江戸褄模様類

新柄小紋色々

東京市小石川上富坂二三(コーツ邸内)

京屋　佐藤松次郎

御一報次第直ちに參上可仕候

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎紳士淑女の好侶伴——男女學生の良師友◎

改題せる

日本最良最大の

日本家庭新聞

一ヶ月二回（一日、十五日發行）
每號三色刷美裝大判拾頁以上

定價

一部	金五錢	
一ヶ月分	金拾錢	郵稅共
半ヶ年分	金五拾八錢	
一ヶ年分	金壹圓拾錢	

▲日本家庭新聞は毎號各ヶ面の大家名流の高見卓説を掲げ社會の流行、娛樂、衞生、育兒、童話、社交、園藝、料理、文藝、禮式、其他諸般の珍聞奇談を記載し一たび繙けば亦永遠に座右を離す可らず

▲日本家庭新聞は第百九號新年號より舊稱、家庭新聞を日本家庭新聞と**改題**す是れ本紙の讀者が普く全國に渉り遠くは清國滿韓地方にまで及びたれば也、されば**新年**號は本紙の改題と新年とを記念とする爲め紙數を平常より倍蓰し材料を豐富にし記事を精選し最も生新なる趣味と智識とを滿載して數萬部を增刷す故に是れ新春讀書界の一異彩にして此花やかなる敎訓ある新年號の入れる家庭は必ず圓滿幸福なる明治四十三年を得む也

……明治三十八年創刊……

發行所　東京市京橋區南鍋町一丁目
電話新橋二五八六、四四三二
日本家庭新聞社

中國支社……山口縣山口中市町
九州支社……福岡市馬場新町六十五番

◎雜誌の實質を備へ——新聞の特色を兼ぬ◎

カメリヤ洗粉
◎容貌の美醜は化粧法の巧拙如何にあり
艶麗花に優り純潔雪よりも猶清く高雅優秀なる美貌は最新の化粧法により配剤せられたる高等美身料カメリヤ洗粉の常用によりて顯はる本品の小量を微温湯に溶解し洗面を試みよ花香芬々として心身爽快を覺ゆるのみならず顔面潔白となりて艶を生じ年若き花の顔となるべし
定價
大瓶壹個廿五錢
小瓶同十五錢
大袋同五錢
小袋同三錢
罐入同十三錢
本舗 東京神田 小林富次郎
發賣元 ライオン歯磨

新人新年號目次

◉開教五十年の春

●教壇

◉新生の風光　海老名彈正

●想苑

◉在外六年の所感　哲學博士　三澤糺

◉宗教の背景　文學士　中村長之助

◉余が信仰の告白　マスターオブ、アーツ　津衕環山

◉シナとアンテア(小説)　佐藤清譯

◉基督教と報德教との接觸點　西內天行

◉秋の日本アルプス　文學士　折蘆生

◉再び思ふ(口語詩)　鈴木重信

●雜俎

◉聖書研究　海老名彈正

◉幕末偉人の面影　文學士　海老名一雄

◉萬國青年大會側面觀　文學士　內ケ崎作三郎

●東都講壇

◉育英義會講演會　浮田博士・三宅博士・大隈伯

●最近文藝

◉「寄生木」「信仰」「相愛記」

●時評

◉國民生活と敎會●彙報

●口繪耶蘇風浪を靜む

社告

謹んで明治四十三年の新正を賀し併せて愛讀者諸君の清福を祈り奉候

一月一日

新女界同人　敬白

希望と感謝とを以てクリスマスを祝し新年を迎ね併せて知友諸君の健康を祈る

英國　內ケ崎作三郎

院長診察月、水、木、金午前、松田醫學士診察火、土、午前、窮者施診、火、木、午前、入院診斷後隨時應需、松田、林、兩副長は目下當院に在勤、

電話本局（八八八病院用 八九八私宅用）

東洋内科醫院

東京市神田區駿河臺鈴木町二番地（御茶水橋畔）

院長　醫學士高田畊安

神奈川縣相州高座郡茅ヶ崎村濱（停車場所在）

電話茅ヶ崎（二番）

南湖院

河野副長は目下當院に在勤、

院長診察土曜日午後〇同時窮者施診、

副長診察月、火、水、木、金、土、午前

入院診斷後隨時應需、

毎月一日一回發行

ライオン煉歯磨

朝の寝覺の心地悪しきも一度ライオン煉歯磨を用ゆれば心身忽ち快活なること恰も大旱の苗に沛然の雨を得たるが如し

尚且つ歯牙をして健全雪白ならしむ特效に至りては既に愛用諸彦の實驗に徴して明なり

新製(十二)號は乳白色の瓶入にてニッケル蓋を有し體裁美なる楕圓形にして日常の御使用に便なり

◉定價　壹個僅に　十二錢

試用見本

として御入用の方は郵券十二錢御送付あれ一個郵送す

發賣元

東京神田柳原川岸

小林富次郎

明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

明治四十三年一月一日發行第貳卷第壹號